HQ
1104
J28

Jan 16
1888
no. 114

廿一年六月（版權所有）十六日發兌

THE WOMAN'S MAGAZINE.

女學雜誌

東京女學雜誌社

一冊五錢
府內無税
郵税一錢
毎土曜出版

第百拾四號

社說
男女交際論（第三）
情交の効益
論說
婚風の事業（第二）（小崎弘道）
批評
交際論○女學雜誌の批評に答ふ（鐵筆將軍）
叢話
夕鐘今夜鳴るべからず○細君の職務（山岡邦三郎）○妻夫を知らず○夫妻を知らず○空氣の說（長與專齋）○戒指考（久松定弘）
小說
小說神髓
佳傳
グラッキの母
寄書
いらつめの批評の評
小供談、新報
附錄
モニカの像、萬國婦人大會景況錄、拾壹卷總目錄

詳和堂中川昇刻
專賣二〇三一一、一五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 104. June 16th, 1888.

EDITORIAL:— On Social Intercourse: No. III., Free Social Intercourse an Advancer of Social Purity.

LEADING ARTICLES:— Means of Social Reform: No. II, by Rev. Mr. Kosaki.

CRITICAL NOTES:—" Social Intercourse" (Kōsai-Ron); A Reply to the Critique on " Meiji no Saikun," by its Own Writer.

MISCELLANIES:—" Curfew Must not Ring To-night"; Wives who do not Appreciate their Husbands; Husbands who do not Appreciate their wives; The Duties of wives; Finger Rings, by Dr. B. Hisamatsu (Concluded); On Air, by Mr. S. Choyo.

NOVELS:— Bouquet of Novels.

BIOGRAPHIS:— Mother of Gracchi.

CHILDREN'S COLUMN:— A Righteous Man.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

1. SUPPLEMENT:— Picture of Monica.
2. SUPPLEMENT:— Woman's International Conference.

通信女學の廣告

一冊枚數七十葉二十錢全國
無郵税半年前金一圓一年前金二圓也

左の第十巻此度發兌せり以後毎
月切度十五日發兌

通信女學 第十巻發兌

此度の號より大ひ
に改良を加へたる所ろあり諒焉

今度所々の婦人會の教科書に用ひら
れたり尚廣く購讀を乞ふ

女學雜誌社

●珊瑚の珠　第六十九回

○ロングフヘローㇾ曰く世上の人其心中に主義の念が根を定るを許さず則ハち小兒が花を植えて屢ば之を拔き試るが如く時に之を拔いて其根の定まるを許さず。

○シェークスピア曰く疑惑の念ハ是れ反逆者の如し吾が得らるべき善事も屢ば之が爲めに失ハる。

○クーパー曰く職業なきハ決して休息にあらず凡そ無職業の空ある心ハ即ち尤も困苦する所ろのもの也。

○エマソン曰く凡そ學者は早晩必らず斯の如く悟了するの日あらん云く摸倣ハ猶ほ自殺の如し云く吾れ善惡の岐に立つて其一を擇ばざる可らず云く世界に善良の事多しと雖ども凡そ一粒の穀物だも必らずや其の領地に於て汗を流し眞に辛苦したるの結果にあらざるなし。

○フランクリン曰く怠慢は萬事を難くし勤勉ハ萬事を容易にす朝晩く起るものハ夜に入つて漸く其事務に追附く然れども怠惰の足甚だ遲くして貧乏ハ速に之に追着く。

○鬼谷子曰く欲多ければ則ち心散じ心散ずれば則ち志衰ろへ志衰ふれば則ち思ひ遠からず。

○翟公曰く一死一生交情を知り一貧一富交態を知る。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第百拾四號 明治二十一年六月十六日發兌

社説

○男女交際論（第三）。

其効益、

男女交際に就て、先づ最初に數ふべき其効益は、即はち斯くして初めて人間自然の性に順ふを得ると云へる事なり。左れば之に引續ひて承知し得べく、且つ其第二の効益として數ふべきは、即はち、

（二）、「男女交際は情交を盛んにす」と云ふ事。

二年前、時事新報の記者が男女交際論を記するや、男女の交際に二樣の別あることを申したり。一を肉交と云ひ、一を情交と云ふ。情交とは即ち從來既でに有り觸れたる文字にして、人間温愛の情感を通じ、互ひに信切にして其情を慰さむるの交際に名づけたるものなり。將た肉交とは、蓋し其頃より初めて世に流行し來つたる新文字にて、記者の解釋に依れば、兩生の肉躰直接の交わりを申し、其の働らきは甚はだ劇にして且つ狹きものと云へり。」扨て男女の交際に斯る二樣の別ありとすれば、今の日本人は果して此の二つを兼ね行ひ、人類當に然るべきの交わりを盡して、陰陽共に快樂を亨け居るや否やと問ふに、彼記者は、日本の男女に殆んど情交あるなし、あれば即ち肉交のみと慷慨して、以て最と用心深く情交の講釋を爲したり。然し吾人の考がふる所ろに由れば、日本の男子は何如に無情の松柏に似たりと雖ども、既に人間の性を受け得たる以上は、迚も肉交のみに安んじて、情交を全滅することの出來まじきものと信ぜり。昔し菅相丞、惡人の讒に罹かり、罪なくして筑紫の配所に送られんとするとき、朝夕に愛顧したる、軒端の梅に向ひ、

東風ふかば香ひ來せかし梅の花あるじなしとて春な忘れぞ

と歌ふ、情思綿纏として辛うじて之に別れたる、蓋し相丞の愛すでに無情の梅に通じたるものなり。而して花を愛するもの獨り菅相丞にあらず、本邦の民族に此の情にあつしとして、外國人が毎度驚歎する程の所ろ、吾々既でに情を草木に寄せ乍ら、反て之を有情の人間仲間に通ぜざるとは、甚はだ聞取がたき説なり。」凡そ人間の此世に存する、何れか愛なくして動くものあらん、英雄は權力を愛し、學者は智識を愛し、商人は金を愛し、才子は名譽を愛す、此の外更らに一等立ち優さつなる美妙高大の邊に愛を寄するものもあれば、亦た、押

を愛し、猫を愛し、植木を愛し、おサツを愛する所ろのものもあるべし。然れども、大凡そ愛の尤も樂しきものは、己れ之を愛すると同時に、先方も亦た之に對して其愛を寄せ、相ひ情を通じ、愛の繩を以て兩々の心をシッカリと結び付けたるの時に在り。左れば權力智識もしくは猫おサツの愛、もとより幾分の情を喜ばすものなきにあらずとは云へ、未だ人を愛して其人より返報の愛を受け、以て彼此其の信愛を結んだるの喜びに比ぶべきにあらず。而して同じき人間仲間にても、彼の優に優さしきものと、剛に強きものと、相ひ交際する時は、其喜び更に一層に強し。即はち人生最上の樂しみは、所云る情交に在り、情交の中ち更らに其の極めて樂しきものは、即ち其男女の間に存するものたるを知るべし。

故に現に何如ほどに肉交の奴隷と爲れるものと云へども、たゞ之を肉交のみとしては、決して滿足するものにあらず。玆に引例するは少しく好まざる所ろなれども、讀者試みに、彼の禽獸と伍を爲し只だ肉慾に走つて不埒至極の遊びを爲す下等の男女を見るべし、彼等は淫亂の奴隷にして肉交の外に高尙の樂しみあるヿを知らざるかと迄てに見下げらるゝに、而も其遊びを爲すや、自身は決して肉交をのみ行ふとは思はず、男子は俗に「浮れ」「ノロケ」などと云へるヿを申して、自分ぎめに通客粹客を以て許し、傾城の暗夜亦た滿月ありと承知して、扨て遊興をも致す者と知らる。而して其の女たらんものも間夫は勤めの憂さ晴らしとか申し、猥褻なる肉交場裏、只一つの信愛する情夫なくんば、決して苦界の勤めは出來ぬものと云へり。此邊の事實、吾人之を傳聞して密かに沈思默考するに、即はち是れ、男女は決して肉交のみにて安んずべきにあらざるを證するものたるを知る也。蓋し人間界に於て甚たしき肉慾の奴隷と爲れるものは、此の放蕩男子と下等女子に越ゆるものなからん。而して彼等が其肉慾を逞しうするにも、敢て之を肉交をのみ行ふとは覺悟せず、當らずと雖ども双方情交を爲しつゝあると信じて、即はち流連も致し、借金も致すものと知らる。」果して然らば、世間無數の潔白なる男女幾千万は、其情もあつく、其愛も強く、未だ曾て浮たる汚點に穢がされざる淸淨の心を以て、如何で情交なうして人生の樂を滿たすヿを得んや。

更らに一步を進めて考ふるに、肉交とは素と夫婦の間にのみ行なはるべきものにして、宇宙間二人の男女の外に斷じてあるまじき所ろの交際あり。而して此の二人の男女と雖ども、

先づ能く相撰み、天の結び合せを崇り、法律の諾許を頒し、四明公衆の目前に於て正々堂々たる約束を行ふたるの後に於て、初めて此交際を實行し得べきものなるが故に、本來之を肉交と稱して、何か一種の交際の如くに云ひ倣すは、既でに大ひに誤まれるものなり。然し、好し之を其儘にして肉の交際と申すとも、實に此交際は、天が下の只だ二人、而も天縁人理を盡したる以後の只だ二人にのみ行はれ得べきが故に、苟くも二以上の男女をして互ひに交際せしめんとには、其交際の無論情交なるべきは火を睹るよりも明らかなり。左れば男子を無情の松柏となし、女子を憫れむべき生花と爲し、彼此れ殺風景に相離れて、未來永劫互ひに交際す可らずと云はゞ兎も角、苟くも之をして文明開化の男女たらしめ、互ひに話しを致し、遊歩を致し、人生一と通りのお附合をも致させんとならば、必らずや彼の情交あるものに操らざる可らざるを知る。然るに若しも此の情交をしも宜しからずと云はゞ、即ち是れ天下の男女を肉交の卑しむべきに驅り迫り、之をして夫婦ならざるに夫婦たらしめ、以て天の則、人の定めに反かしむるもの也、吾れ人豈に之を喜ぶものならんや。

故に吾人は、決して重くるしく情交の講釋を爲さず、亦た左樣にビクくとして情交を主張するものにあらず、實に日本の男女苟くも人間たらん限りは、素と情交なくして決して止むべきにあらずと斷言することを得るもの也。」時事新報の記者は云く、「肉交は人間快樂の中にて頗ぶる重きものなり、之を情交に比べて兩樣の輕重如何を問ふ者あらば、我輩は其孰れを重しとし孰れを輕しとして、容易に答ふると能はず、唯兩樣ともに至大至重にして其一を欠く可らすと答へん」と云へり、然し吾人の考へには、肉交は迚も情交と比較すべき程の交際にあらず、甚はだ挾く、甚だ卑しく、甚はだ厭き易き所ろのものと信ぜり。故に試みに彼の夫婦に就て其兩樣の輕重如何を問ふべし、誰とても肉交を輕ろんじて情交の大切なるとを答ふべし。臨終の今端に婚姻の盃づきを爲し、老いていよいよ老夫婦の仲好きの類は、肉交の甚はだ無効なるとを證するもの也。吾人の理想によれば、人間は遂に肉交を以て一種の義務と心得、仕方なくして夫婦肉躰の交わりを爲すの日に至らんと信ず。左れば某し進化論者が、後世遂に人間を製造するの日に達せんと申したるは、強ち元形質を造つて、生きたる人形を手細工にするの意味とは思はず、即ち夫婦兩人國家のお爲めを思ふて不得止、子孫永續の義務を行ふに至らんとの

意味と解釋せり。」思ふに、今も后ちも、肉交の樂しみ薄きは常に此類の趣きあるべく、彼の「豫言は癈り、方言は止み、智識も亦た癈らんとするの日まで、」いつ迄も落るとなくして彌が上に榮え行くは、即ち多情動物たる吾々人間の情交ならんとを信ず。

斯樣に、夫婦間に行はるゝ最上の交際は、即ち情交なり。夫婦ならざるの男女間に行はるゝ交際は、必らず情交あらざる可らず。左れば、前篇に申したる如く、人間若し社交の動物にして、是非とも交際せねば成らず、又此交際あるによつて初めて幸福を得らるべきものと知らば、即ち夫婦間にも、世間男女兩生の間だにも、先づ此の情交のあかる可らざること明白ならん。」故に夫婦間に其情交を禁ずれば、是れ、夫婦をして只だ尤も卑しむべき肉交の朋友とならしむる迄にて、先づ其の情愛を外に現はすを禁じ、又た其の他より情愛を受るを禁じ、彼等が高尚愉快なる靈の樂みを收るを禁じ、以て之れを土塊禽獸に齊しき堺界に止らしむるものにて、即ち夫婦が固有する最上の幸福を殺ぎ、且つ之をして禽獸界に陷いるゝもの也。」將た又、世間の男女兩生間に其情交を禁ずるは、是れ、男女の交際とは只だ肉躰の交はりを爲す迄の事と心得さする義にして、天下を淫にする、之よりも甚はだしきは無し。元來男女の相交際するや、陰陽剛柔相合して、一種美妙の新空氣を造り、此の新空氣を呼吸して、初めて人情自然の美德をも發達するとなるに、彼等は此の貴とむべき情の交を爲す可らず、爲せば即ち肉交を爲すべき迄と敎ゆると、恰かも是れ、汝ち人間に交わりを爲す可らず、爲せば即ち禽獸の如くせよと敎ゆるが如し。」天下何の處に行くとも、如此き敎へを主張するの聖人はあるまじ。

然るに玆に不思議なるは、日本從來の道德敎として、此の無くて成るまじき情交を禁じ、男女もし情を以て交らば既でに聖人の道に反きたる樣に言ひ囃したるは、抑も何たる間違ひぞや。くれぐれも申す通り、夫婦ならざるの男女が交際するとは、即ち情交を盡すの謂なり（彼等にして肉交を爲すとき、之を姦淫と云ひ、天下何んの敎へに於ても、皆な之を嚴罰す）。然れば、男女席を同ふす可らず、容易に話しもす可らず、顏を見せ合ふ可らずと云つて、其交際を禁するとは、即はち言を換へて申さば、全く其情交を禁ずるものと云はざる可らず。而して此の情交を禁ずるは、啻に夫婦ならざるの男女に就いてのみ申すにあらず、既でに正々堂々たる夫婦と爲りたるの

後ちにも、彼等が餘り仲を好くするときは、何か之を色に溺るゝやうに評判し、内所は兎も角、表て向きに於ては、固く其の信切なる交際を非るの習慣、年代と共に變じて一種の化石と爲り、今まは殆んど彼等が情交を禁ずる迄の景况と爲りぬ。之れ吾人が「日本の家族」を論じたるときに於て、强く不同意を表し置たるの一點なり。」左れば日本の習慣風俗は、凡ての男女に、其情交を爲すことを嚴禁したり、好し之を嚴禁はせずとも之を快ちよく行ふことを嚴制したり。男女すでに情交を禁ぜらる、於此乎、彼等が滔々として走り行くべきは、即ち只だ肉交の一事とは爲りたり。

抑も人間は、苟くも人間たらん限り、決して本然固有の情を制して、以て其情交を全滅するあたはずと雖ども、左らばとて若し自由に之を行ふとの許されざるに於ては、若しも臆病なる竊盜が物を竊むやうにして之を行ふとならば、而して隨て其の情交の施し方に至つて全く不知不案内なりとならば、元來何如に情交に熱心あるものと雖ども、遂に十分なる情交を行ふに由なからんとす。此に於て乎、男女の交際はいよいよ肉交の一事に傾き、彼等會へば密通し、寄れば姦淫を犯し、此の靈の躰だを擧げて、實に言ふに忍びざる下賤の器わと爲し了するに至る、悲矣哉。」樂翁公曰く、近くて遠きは望遠鏡中の景色、遠くて近きは男女交際上の本色なりと、吾人之を聞いて悚然たらざるを得ず。嘗て、春水の小說を讀むに卷中の佳人才子は、其の辛ふじて相面會するや否や先づ、彼の西洋に在り觸れたる如き高尚淸潔の談話を爲すにもあらず則ち直ちに犬の如く豕の如きの行を爲すに在るを見たり。又嘗つて「書生氣質」を讀むに、堂々たる天下の寶物、即ち志望遠大、學識淺からずと稱せらるゝ大學の書生連にして、其女性に對するの感覺は、悉く是れ肉交の上に偏するの、景狀あるを見、憮然として長大息したり。」然れども是れ共に其小說の罪にあらずして、實に社會の罪惡を直寫したるもの也、社會實に罪あるにあらず、其の習慣遂に男女を驅つて、此の厭ふべき、卑しむべき、憫れむべきの地位に陷いらしめたるもの也。

故に、今まの如く姦淫の空氣の濃厚あるは、一つは男女間に情交の樂しみあかりしに由り、一つは肉交の外に男女の接すべき方便のなかりしに由る。」思ふに男女相慕ふの天性は、素と其の肉交を望むが故にあらず、實は其情を通じて、一目片視の間、美妙言ふべからざるの味ひを求めさする天の鼓動機

と云ふべし。故に若し、年少の男女をして互に情交を爲さしめたらんには、其淸潔なる應對の間に、旣に胸中に蟠まる一大磐石を取去り、心氣すが〳〵として、爽快の感覺油然として起り、彼の肉交なるもの、實に下賤卑劣なるを感ずるに至るを常とす。」蓋し男女すでに年に達して情交の時代となれば、是れ天命の彈機正に發するの時たり。此時男女もし相面會して談話應接に其情を慰さむれば、心中の鬱氣は乍ち洗が如くに散するものなり。然るに、當人も父母も彼の人情を知らざる所の聖人も、此の情交念の發作を以て、直ちに肉交に陷いるの誘惑と心得、則ち此時より彌よ男女の相見るを嚴禁するを法とす。」之を以て、情交によつて散じ得べき働きを、肉交あらでは滿足しがたきものと誤認し、當人も亦た何より早く此の肉交を望み、望んで之を得ざるものは顏色いよ〳〵青く、恍惚として無名の奇病とあり、其の亂暴なるものは、遂に穴隙を鑽つて、不埒の行ひを爲すに至る。憫むべき哉。」故に若し情交自由ならば、天下の姦淫々亂は確かに其の三分の二を減ずべし。少年が放蕩も大に減ずべく、藝妓娼妓の數も大に減ずべく、間男密通の不行跡も大に減ずべく、日本國中一種の洋々たる和氣を以て充滿し、道に遺ちたるものありとも拾はざる、聖人三代の道德、庶希はくはそれ行なはる、に至らん歟。

故に男女の交際は、情交を盛んにするもの也。情交の盛んあるは、肉交の奴隸を減ずるもの也。」肉交の減じて情交の盛んあるは、人いよ〳〵其靈を發達して、いよ〳〵下等動物よりして遠ざかるもの也。」左れば、男女交際は、避雷の柱の如し、陰陽霹靂の怒氣此より散ず。男女交際は、天使の案內の如し、人間導かれて天に登り、其足いよ〳〵地を離る。男女交際は、論語の講釋の如し、人情を發達して之を信切にす。男女交際は鵲の渡せる橋の如し、彼岸此岸の兩生初めて相交通するを得。即ち之を一言するに、男女交際は情交を盛んにして人を人間にするの効益あるもの也。

論說

○矯風の事業（其二）

小崎弘道述　社員筆記

兎角事は言ひ易くして行うとは甚た六ヶ敷いとて今日種々樣々の會もありますが其事業は只口にて斯う云ふ風にすると云ふとは左程六ヶ敷いとはないが實地に能く之を身に行ふて往くとは餘程六ヶ敷いとでありまして先づ熱心を入りますが又

之を爲す方法手段其仕方が第一に大切あることと思ひます譬へば同じ戰爭を爲すにも敵は佛蘭西或は獨逸の兵式に據て調練したる兵であれば味方は如何に良き村田銃の樣あ鐵砲を持ち如何に勇氣ありとも其隊を組まずして無茶苦茶に戰ッた所が到底勝を占めることは出來ません故に我々が何事を爲すにも其順序方法を能く〳〵考へて往くとが大切で殊に矯風會杯は其手段方法は餘程必要と思ひます彼の亞米利加に於ての婦人禁酒會にて今日其說を實行する其手段を考へれば種々ある手段を施して以て其目的を遂げんと働て居ります先づ第一は小學校に禁酒の本を入れて小供の時よりして段々酒の害なることを知らせる樣に努めて居り又第二は新聞或は雜誌又は摺り物を澤山拵へて然うして輿論の勢力を惹起して人々が自から酒の大害なることを悟らしめんと努めて居ります又今日亞米利加に於て禁酒の爲めに爲す或る所の新聞は大凡そ二百種類もあります又禁酒のことを記したる本を細民共に與ふ摺り物は年々如何程出來るか計り知れません其本に記したる所に據れば年々何百万部を摺り出すとあります斯かる摺り物を以て人の心を動かし人々をして其害あることを知らしめることが實に必要であります又第三は言論を以てする即ち演說を以てすることが大切であります此間も佛蘭西の「ビルアル」と云ふ人が亞米利加から加奈陀の諸州を巡て演說しました所が其れが爲めに大に與論を惹起したこともあります今幾等も女にして其事計りして居る者も居りまして其れが諸州に手を配つて居ります之れが第三の手段であります第四は法律を以て之を禁ずることであります之れは前申す樣に大統領の改撰とか又は地方議員改撰の時杯は亞米利加に於ては婦人が大に盡力して禁酒論を翼くる議員を出す樣にと百方力を盡して居ります又或る國に於ては已に婦人に撰擧權を與へたる處も御座いまして婦人の勢力も餘程強く爲て其議論も行はれる樣よ爲て居ります是等が直接に力を盡して居ることでありますが其他一己人の互に間接に骨を折て居ることは幾許なるか分りません然るに我日本國に於て考ふれば前述べました亞米利加の如き方法手段を悉く用ゆる譯に往きまんが略ぼ相似たる手段を施さんければなりません其方法は先づ第一に摺物或は演說で此二ッは今日最も力あり最も大切なることで又今日何事を主張するにも何れの時代にても此の二ッは最も力あり最も働きを爲すものであります然かして我日本國にては政府に立入てこれが法律を設くる樣なとは未だ其れ程輿論の勢力が無い輿論の勢力を以て其法律の出來

る杯のヿは未だないから事が餘程出來難いけれ共今日の日本に於ては或は演説或は出版を爲して以て禁酒論を主張し或は一夫一婦の制或は藝娼妓杯を廢するヿであれ又は妾を蓄ふる者を論破する杯のみに盡力するは實に必要なる好時機と考へます故に私共も之れより其主段を交際上に於ても施して是等の者とは與に集會せんとか何んとか之れが風習を造り立てるヿは今日我日本國に於て實に必要のヿと思ひます西洋にても大統領撰擧の時に或る宴會に於て各國の公使を招待して皆夫婦を招きましたが其中獨り夫計り招いて奥さんを招かなかつた其れに就て種々議論もありましたが其奥さんは眞の妻で無かつたからであると云ふヿであります實に一國の全權公使と云ふ位の者でありますから大變なる耻辱でありまして其人も大に耻たそうであります又亞米利加の「ボストン」に於て貴顯の宴會がありまして其客人に獨り本妻で無い者を連れて來た者がありました所其他の者が此者に對して更に一言の言葉をも懸けんヿがありました所が其者は爲めに「ボストン」を去て佛蘭西に往きましたけれ共佛蘭西でも其通りでありますから復「ボストン」に歸て來ました歸て來ると是迄交つて居た者までも一人も交際せん樣に爲りましたから其れが爲めに「ボストン」に居る事が出來ずして遂に去て他國へ往つたと云ふヿがありますが斯る者は遂に人も交際を絶つ樣に爲りますから我日本國に於ても風俗の改良を遣つて惡いとは自分の心中にて耻づる計りでなく世間に對して出來んと云ふ樣にせんければならん其れに就ては各々與に力を盡さんければならん又斯ゝる事業を爲すに就ては先づ其の方法手段を立つるヿが大必要であります私は此間も亞米利加の靑年會の人々が種々事業を爲すに就て大に感心したヿがあります其れは其會員は一人として何にか一の役を受持て居らん者はない譬へは此に百人の會員がありますれば其百人は各々何にか一の役を勤めて居ます其役は如何なる事かあらば或は遊藝の掛りとか或は教會に導きをする掛りとか先つ靑年會に於て委員の組が五ッも六ッもあれば一組の委員は或ハ十人或は二十人を以て成立て會員は一人として委員ならざるなく譬へは遊藝の掛りが十人なりとすれば一週間に一人一度宛とか交代にて其事に盡力して居り又小學校なれば教師は素より月給を出して傭ふて居りますが其世話を爲す委員が十人とか二十人とか居て離れても皆多忙な身であるから其内で一人宛とか或は二人宛とか一週間に一人一度宛の交替にて世話掛りを勤めて居ります又接待委員

（八）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

もあつて之れも十人とか二十人とか居りまして毎晩來る人を待遇します又見舞の委員もありまして之れも十人か二十人居て諸方を見舞し或は會員の中にて病氣に罹り居る者はないか又は何にか不都合の事は無いか其等の事の世話を爲す者が交替で一週間に一人一度宛位勤めて居ります如何に忙ひ身であつても一週間に一度位は誰れでも出來ます又祈禱會の委員もあつて其世話も矢張り前と同く幾人か極りがあつて交替で勤めて居ります其他入會人の委員も居て此人は信者であるかないかを調べて若し信者で無い時は其人を周旋して入會させる等の委員の設けは實に澤山なものでありまして會員たる者は一人として委員で無い者はありません斯ゝる方法に爲して與に盡力して往きますから從て其事業も能く出來る譯でありますす故に此矯風會に於ても人々に話しを爲し又出版等もあり又人々の内を見舞ふ樣な種々樣々な仕事が是より後段々出來て來樣と思ひます其處で其會員たる者は各々何にか一の役を勤めて一週間に一時間とか或は二時間は此會の爲めに必す力を盡す樣にして又一人で不都合なれば二人位に爲すが宜ひと思ひます現に雜誌抔も出來て居りますから之れと與に漸次他の仕事も出來て來ますから話しの出來るお方は充分話しの方に盡力せられ或は人々の内を見舞ひ其他矯風會の部なる禁酒會の掛りとか或は風俗の掛りとか斯ゝる委員を其れ〳〵設けられて以て盡力せらるゝが實に必要なる手段方法と考へます又今日何れの會と雖も仕事の無い會は一も無い其仕事の無い樣な會ならば迚ても榮へて往くとは出來ません故に今此矯風會抔にても一寸考へれは如何なる仕事があるか分らん樣ですが能く之を調べて看れば其事業たる實に大なるとでありますから中々一朝一夕にて其目的を遂げるものでない故ゑ本會に入會して居らる方々は此矯風會の爲めに何にか一の役を勤めらるゝが肝要と思ひます又之を爲さるゝに就て皆さんに一の忍耐心を養はれんければならん御承知の通り殊に日本人の癖として始めの間は一寸奮發しますが永く續く間には最早始めの精神を失ふが常であります私は二三日前名高い彼の英吉利國で監獄の改良に就て大に骨を折りました「エリサベスフライ」の事を考へまして大に感じました此人が監獄の情態を見て其憐れなるとを感して是非之れか改良を圖らんければならんと考へて已れ一人其事の着手に至るまでの四ヶ年を費やしたそうであります之れが若し日本人ならば中途にして其精神を挫くかも知れませんが此「エリサベスフライ」は此事に付て

四ヶ年も考案を盡して以て之れが改良を成し遂げたと云ふと
であります其れ故にどふか此矯風會に於ても其爲す事業も大
きく從て其目的も仲々一朝一夕には之を遂ぐるとも甚だ難い
とと思ひますから皆さんが忍耐力を養はれ種々の順序方法を
設けられ以て盡力あらんとを望みます（完）

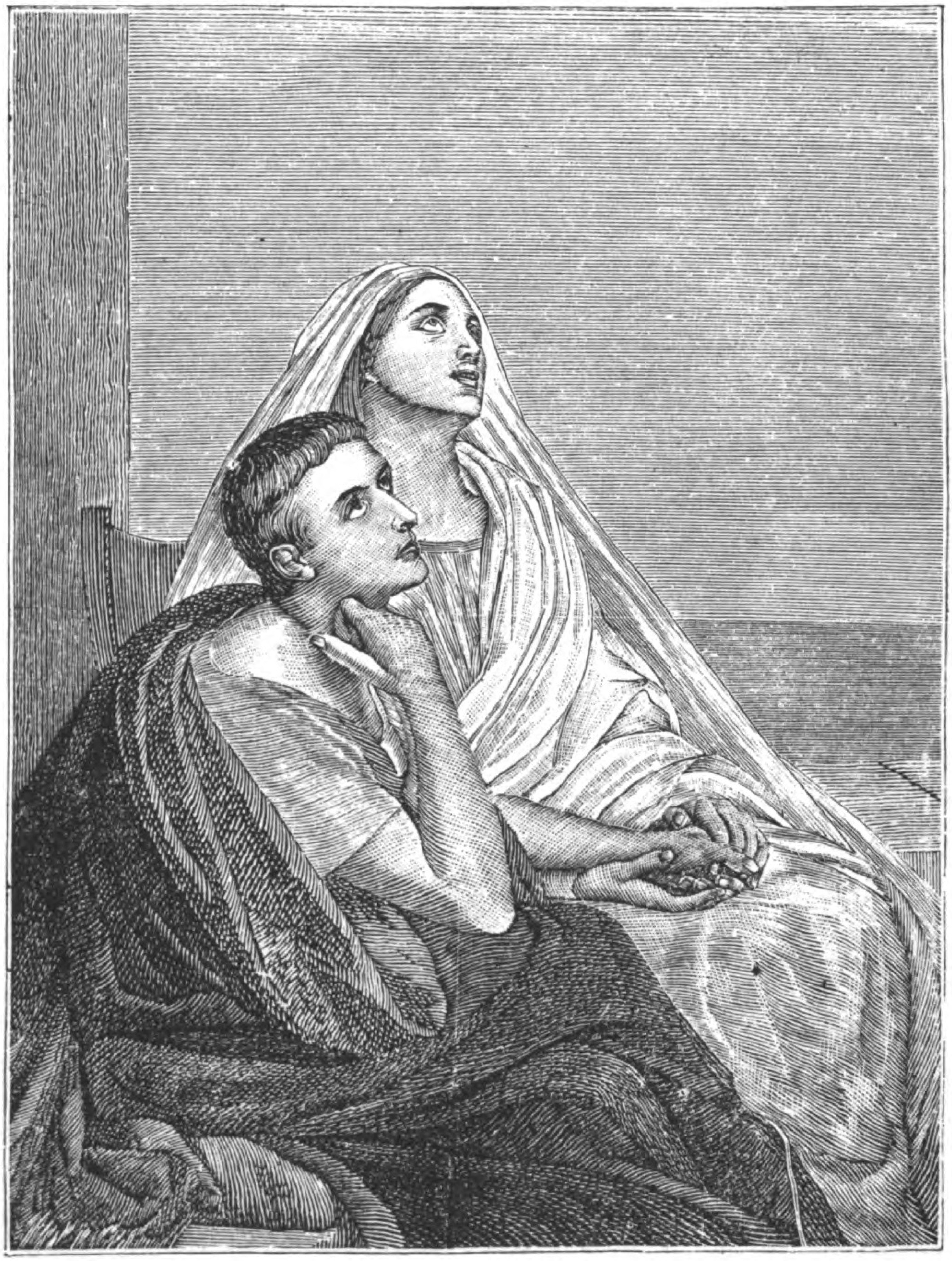
批評

(72)・交際論（中本一册(百三十四頁)定價卅五錢 發行所東京南鍋町十八番地正文堂）

此書は東京女子專門學校の敎頭故の木村秀子が遺著なるを其實妹奈良惠子が校訂して出版ありたるもの也、秀子女史の經歷は女學雜誌第八十四號に其略傳を載せたるに就て見るべし蓋し快活有爲の女學生にして后年の望み甚はだ深かりしに年二十にして其溘然永逝せられたるは吾人が平素甚はだ遺憾とせし所ろあり而して今此の遺著を讀むに當つて特に此感の切あるを覺ゆ。女史が生前吾人遂に之と面談の愉快を取るに至らず細かに其人と爲りを識らざりしと雖ども傳聞する所ろによれば風采堂々として偉男子の如く議論常に尋常女流の句調に異なり嘗ては其女子專門學校に於て擊劒を以て遊戲に代へ細腕柳腰、袴をかゝげ、自から先だつて之を試みたりと云ば當時之を推して只だ一個の快活ある女丈夫なりと思ひたりき而して今此書を讀むに及んで資にいよ〳〵此感の切なる耳ならず併せて女史が優温たる愛情に富む甚はだ渥く又世態人情を重んずる甚だ綿密なりしとを初めて知了し轉たゝ之を見るとを得ざりしを憾めり」本論分つて七章とす、第一章ゟ自己の交際を務むる方法を論じて本我は最良の朋友なるを辨じ第七章に親子同胞の交際方法を論じて親子の最近の朋友なるを辨じたる着一等の見識と云べし而して其他氣質不同の人と交際するの方法(第二章)年齡不同の人と交際するの方法(第三章)男女交際の方法(第四章)友人との交際の方法(第五章)敵友を處するの方法(第六章)の如き其議論の幾分を獨逸先哲の著作に執りたらんは明白なりと雖ども然れども著者半生の用意愼密なる、其交際を重んずるの信切なる、及び其人情を洞見する一種の慧眼あるに非ずんば決して此の老成文字を綴ると能はず而して文章は勇壯快奔時として慷慨時として嚴肅吾人は本邦女流の筆にして未だ多く如此きあるを見ず然も此書半ばは其病蓐上に於て成れるものと聞て吾人いよ〳〵之に服せざるを得ざる也。故に今ま本論中の所々より數節を斷抄し試みに其の一斑を示すべし、

アウガスチンと母モニカの像

賢妻たり賢母たり千歳婦女の軌範たるモニカ



の佳傳は女學雜誌第百十三號に就て見べし

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

巖本善治編

●木村鐙子小傳

定價十錢　郵税六錢

右は女學叢書第一卷として鐙子の君の敬すべき事歴を編せしものにて姉妹の閲讀せらるべき價値あるものなり。

發賣所　女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自己交際の條中讀書の要を論じて云く、

自己の交際に最も必要なるものは善良の書籍なり夫れ讀書の要は智識を積み其品位を貴ふするのみならず閑散無事の際談笑睡眠の間だに浪用すべき光陰を轉じて人生幸福の具となすにあるなり古人云ふ遊惰の腦は邪念の巣窟なりと確言と謂ふべし夫れ人は常に勉勵なれば不善を思ふの遑なく却て善徳を慕ひ善行を喜ぶに至るべし、古人又言ふ光陰は一代の過客なりと其の逝や流水の復び還らざるが如し其積みたる智識は佳花の蕾なり陽春一たび運り到らば艶然人目を驚かさん、此光陰を浪用し此智識を積まざるは何んぞ其れ疎忽の甚はだしきや幸福は聰明なる耳を持てり鋭敏なる眼を具へり、呼べよ然らば至らん招けよ然らば應せん（第一章中第六頁）

又男女交際論中男子の女流に好愛を博する所以を叙して、

男子が女流に好愛を博する以所のものは容貌の優美にのみ由るなりとの思考は只だ未開の女流社會にのみ行へるべし、女流の見識漸く進むに從ひ其好愛の目的も又從て高尙に趣き或は男子の品行高きを慕ひ學識博きを好み名譽人望を愛し雄壯活潑を嘉するに至るべし而して常に此好愛に伴ふものは容貌の優美なり、故に女流の氣に協ふ所以のものは敢て男子の伶俐才氣あるの故にあらず左りとて又氣嫌を取るの巧みなるにもあらず只だ女流の性質に協ひたる一種の機轉を心得たるに因るなり、此交際法たる甚だ難し我國の男子は或は随分面倒なりと思惟するものもあらん、然れども今日の形勢は男女交際の必要なる秋なり故に其方法も亦舊來の壓抑主義に出づべからず依て茲に男子か女流社會に對するの取扱を說くと左の如し、男子の容貌は成るべく溫柔なるべく、言行は謙直なるべし萬事禮式を尊び輕忽麁暴を愼しみ謙遜退讓を專らにすべきなり女流は遠慮勝ちのものなり故に是を遇する謙退に失すべからず左りとて輕慢に取扱ひ輕蔑せられたりとの念を發せしむるは更に不可なり、總べて瑣々たる事物も心を用ゐ自己の愛を表して以て其信用を厚くせんとを求むべし心は小に膽は大なるべく勇壯なるべく活潑なるべきなり、左りとて粗野に流れ德義に戾る勿れ擧止は怠慢ならず輕捷なるべく外貌は正儼なるべし、言辭は柔和にして傲慢或は激切に失すべからず左れども又不活潑にして卑屈無氣力の風を表はすべからず適ま精神鬱屈したりとて女流に對しては辭色の爽快ならんとを勉めよ決して不興を醸すと勿れ志氣は高尙に胸宇は豁濶なれ、是れ皆上流婦女の欣慕する美德にして女流の氣に協はんとを欲せば蓋し此道に憑らざるべからざるなり（第四章中自六十頁至六十六頁）

又友人との交際方法中に良友を得たる以上の注意を論じて、

抑說かゝる至善至良の信友を得たる上は誠心以て之と交はり交誼の日に月に深く且つ厚きに至らんとを力むべし、假令一旦の僥倖にして我れ彼れの上に立つ共又或は落魄流離して他の睡棄する所となり衆口喋々彼我の交際を批難するも決して之を以て我が信用を動かすべからず確然信じて疑はず彼を尊敬すると益す敦く信任すると愈よ深かるべきなり是れ吾が義氣を表すべきの時なり吾が誠實を知らしむるの機會なり、記臆せよ他日金蘭の交情此時に胚胎するを（第五章中八十二頁）

最後に子女の其父母に對する有樣を論して、

又不幸の子女へ通常其母の傍らに在るを厭嫌して如何にも退屈の思をなすとなるが、是れ抑も不孝の大なるものと謂ふべし、看よ汝の母は嘗て麗かなる春日も熟睡したる汝の傍らに在りて戶外に出でざりしにあらずや、又汝が不幸疾病に臥すや寂寞たる秋夜も暗淡たる孤燈の下に獨坐せしにあらずや、又顧みて母の少壯なりし時を想へ汝を介抱し汝を撫育するには如何に多く愉快を拋擲せしや汝が囂然たる號叫は母が安眠を妨げしと幾何ぞや（第七章中百三十二頁）

○女學雜誌の批評に答ふ

鐵　筆　將　軍

方今女性の雜誌として最も勢力あり最も信用あるものを女學雜誌となす何となれば其議論は極めて老成に其文章は頗る華麗に其批評は大に見るべきを以てなり故に余は之を愛讀して常に其記者先生の老練該博に感ぜずんばあらず然れども智者或は一失なき能はず老猿時あつてか木より落つ記者先生の余が著明治之紳君を評する殆んど之に類するものあるを以て爰に一篇の答文を草するの止むを得ざるに至る願ふに公明正大なる記者先生は其紙上の餘白を假すを惜まれざるなるべし、斯く四角張つて書き出したればとてナニモ辨駁とか論駁とかいふ大袈裟なるものにあらず且つ內心に於ては余は頗る記者先生の能くも精細に拙著を讀まれたるを謝するなり能くも至當に余が胸裡を洞觀せられたるを感ずるなり然らば何れの點に答へんと欲するかといふに僅かに一寸としたる處二つ…タッタ二つ…其二つに答へんとする前に尙は一言せざるべからざるものありそは記者先生が「…之を何分思ひ切つたる文章に奇拔の思想を現はし随分に面白き所あり」とか「…之を一種創体の無頓着に書流されたる鐵筆將軍の新著としては其慣少なきに非ず」とかおほめ下されたるは實に意外の意外に出でたるものにして鐵筆將軍甚だ嬉しく思ふ否昔し流儀に傚つて不敢當不敢當としりごみせんと思ふ。

借答へんと欲する二つの中其第一點は記者先生が「一人の車引き本屋を驅まわつて明治之紳君を買に行きたる書生一人凡そ此等の外は頓と男性を見ず全卷恰かも是れ女軍の討論會の如し」と書れたるとなり記者先生は何故に此言を發せられたるや余が著の中果して一人の車夫一人の書生の外頓と男性を見出されざりしやへンろりんな車夫や書生の如きトッタリ役者をわざわざ穿鑿されずともフヤマと與に働く肝腎なる水野勉三山本勇大島信篤横田房八の如きは與先に記者先生の御眼には留らざりしや且つ又假令本書に於て一人の男性を見出さゞりしにもせよ本書は

記者先生のいはるゝ如く其第一卷なれば其第二卷より何千何萬人ともなく男性の押出し來るやも計りがたかるべし然るを前の如くに書れたるは大早計ともいふべきか粗漏ともいふべきか。

其第二點は記者先生が「吾人不幸にして未だ將軍に拜謁せず然し將軍は餘程面白き御方にて特に餘程自尊の御方と見へ右明治之紳君の開卷第一葉には御自身の寫眞と思はるゝ二十左右の美少年の御面相を現はし終卷の末葉には左の如き廣告文を載せられたり云々」とかゝれたると是れなり此評語の中自尊の御方とは何ぞや記者先生は何を以て果して余が自尊の人物なるとを證し得られたるや寫眞を現はしたるか爲めか寫眞を現はしたればとてナニモ自尊の人にもあらざるべし紳君を求むるの廣告を載せたるが爲めに之を載せたればとて亦自尊の人にもあらざるべし余は實よ記者先生が何を標準とし何を證據として余が自尊の人物なるを鑑定せられたるかを知るに苦しむなり又記者先生が徒らに獨相撲をのみとり賜はず水町の紳君の如き立派なる紳君を媒介し下されざるをお怨み申すなり。

余が記者先生に答ふる斯の如きのみ僅かに此二點のみ定めて記者先生よは天地震動して鼠一疋飛出したるの思ひあらるるならんお笑ひなく採錄を願ふ頓首頓首百頓首（余が自尊ならざる斯の如し）。

叢話

○夕鐘今夜鳴る可らず　　みどり譯

或る悲しき日の夕方、英國の太陽は滿地に美しさを充しつゝ、叙むろに遙か彼方の小山の巓に沒しつゝ其最後の光線は一人の男一個の佳人の額ひに接吻したり、男は首べを曲げて悲しみ且つ考ふる如く步み緩やかにして疲れたる如し、佳人は光りに輝く毛髮を風に漂よわし、寒き白き唇に謐を制せんとす、謐に云く夕鐘今夜鳴る可らず。

佳人名はベッシー、塔は高くして暗く、壁は黑く冷たく濕りたる、最と舊るき牢屋に指ざしつゝ、白き唇に口ごもれり、

喃お坊さま、彼の牢屋に妾わの戀人あり、今夜鐘の鳴らんとき其時死刑せらるとは宣告されぬ、今生の助け手は遠きに在り、クロムエル殿は日沒まで歸り玉はず、言ひ去つて更らにまた謐やくとき、唇不思議にもいよ〳〵白ろし、而して其謐やくや云く夕鐘今夜鳴る可らず。

男は是れ寺中の坊老、靜かに答へて申したる、其語ば矢の如く又た毒つけたる投鎗の如く、毎語一々に佳人の溫情を刺す。喃ベッシーの君、彼の暗らき陰なる塔上より、私は多年夕鐘を鳴らしたり、毎夕正さに日の沒するとき、鐘は暮光の時を報じて誤まるとなし、從來つねに義務を盡し、常も正しく之を勤めぬ、老ひたりといへど爲さねば成らす、夕鐘今夜鳴らざる可らず。

佳人の眼こ此時するどく、佳人の顏ばせ此時青く、思案の前額は嚴しく又白ろし、則はち人知らぬ胸中、自から嚴盟を立つ。彼の判官が宣告して、今宵夕鐘の鳴らん時アンダーウード死刑せらると、讀上げたるを聞くとき涙だもなく歎息せず、而して後ち呼吸ます〳〵急に、其兩眼いよ〳〵大にいよ〳〵輝ぐ、低音ひろかに謐やきて云ふ、夕鐘今夜鳴る可らず。

佳人走つて前面に飛び、一棟舊寺堂の戸内に入る。坊老は則ち慣れたるの途を歩んで、歩んで後へに在り、佳人一瞬間狐疑するとなし、眼、頬ともに赤く、暗らき塔上に登る。塔上鐘ありアチラコチラに動く、佳人一光線だも透らざる塵あるの階子を、上に上にと登つて白唇互ひに語る、云く夕鐘今夜鳴る可らず。

佳人最高の階に達す、頭上大ひなる黒き鐘あり、見下せば暗黒恐るゝに堪へたり、宛も是れ奈落に下るの途の如し、見よ重大なる鐘舌動かんとす、正に是れ夕鐘鳴るの時なり。之を見て佳人の胸は凍る、息氣は止まる、額上白ろし、佳人之をして鳴らしむるか、云く否な決してせしめず、眼光突然光を發す、彼れ一躍して固たく之を握る、云く夕鐘今夜鳴る可らず。

佳人の身は是れ遙かに外に躍る、全都は是れ足下の一光點たり、鐘動いて左右に震動すれば、全身かゝつて天と地との間だに在り。坊老老いて耳聾、縄を取つて揮つて鐘聲を聞かず、然れども壯士を弔する葬儀の鐘鳴れりとなし、縄を取つて揮つて鐘聲を聞かず。佳人更らに固く之に依り、震るひ且つ白き唇を以て、心中の大鼓動を制し、云く夕鐘今夜鳴る可らず。

斯くて了んぬ、鐘動きを止む、佳人再たび階子に歩む、階子黒くして舊るし、人足の踏まざる數百年。嗚呼佳人の爲したる大膽なる處行は、日沒の光滿天を美にするとき、向來多年の談柄たらん、白頭の老翁、兒童に語つて云はん、彼宵夕鐘遂に鳴らず。

遠山を越えてクロムエル來る、ベッシー之に見えて、前憂あとを止めず、足下に伏して之を言し、手を捧げて其傷を示す、其面は好く人に說く。然も悲しんで青く且疲れたる、彼が情を動かして之に憫れましめ、其目則ち霞を以て被はる、クロムエル云く往けよ、汝ちが戀人生くべし、夕鐘今夜鳴る可らず。

○細君の職務

山岡邦三郎 述

妻君の第一の職は家を造ることで御座りましよう併し私の家と申すのは屋根やら床やら窓やら烟出しのある家を申すので御座りませぬ又細妻は紺の法被や股引を着て大工にならねばならぬ左官にならねばならぬ或は屋根屋にならねばならぬと申すので御座りませぬ。コヽニ家と申すのは近頃貴女等が女學雜誌や外の新聞などにてよく御覽なさる「ホーム」の義味で

御坐ります。「ホーム」とは英吉利の語にして日本の語に直せば家庭とか家族とか申して宜敷御坐りましせう。即ち夫婦親子の集たる無形の家で御坐ります。又造ると申すも早く夫を有ちなされ子を生み給へと御勸するので御坐りませぬ幾ら早く夫婦になつても子を持ても夫ハ家を外にし妻ハ家にて泣き子は不孝になる樣にては決して眞正の家族と申されませぬ、名計りにして實のなき家族で御坐ります。ソコデ家を作ると申すのは幸福なる家族を造ることと又家をヨク治むる事を申します。

承ハれば日本の御婦人方の中には嫁入するのハ牢屋にても行く樣な心持をして悲む方が多とか聞きましたが實を申せば牢屋へ行くにあらずして恰度一の領地を受取る樣な者です。姑が隱居して一家の事を嫁に任す時ハ太子が讓を受けて帝位に即くのと同樣で一家内の支配人となるのです。夫は外の事を務め妻ハ内の事を治るからです。而してよく一家を治むれば奥樣の最も高き名譽で御坐ります。又奥樣の權利もコヽカラ出て參ります。ヨク治めたる國の王が名譽あり權利あるのと同樣です、併し若し支配を過りまするど大なる禍を起します。今より百年程前に佛蘭西の路易十六世と申す帝や又英吉利のチャーレス第一世と申す王ハ政治を過まつて人民のために斬首せられました。今日我國の婦人方の不幸なるには種々の原因もありますなれども家内を治むるの道を知らないのは其一ツでありましよう。

次に家を治むるとハ如何樣の事か。室内には一本の塵もなき樣に掃除が上手で御飯の煮き樣御料理の製方も上手に洗濯は申すに及ばず縫物等も上手に出來ればよいかと申すに若しコレラの事はヨク出來れば細君の名譽又コレハ妻君の義務ですけれども、若しコレ計りに止まれば奥樣ハ下女の樣に取扱はれても仕方がないです。何となれば少シ給金を餘計に出して上等の下女を雇へばコレ位の事ハ出來ますからです。今申したる仕事は細君の仕事の極初歩です。サラバ細君の大切なる職は何かと申せば家内の者を一致和合せしむることであらうと存じます。目に見ゆる所の家も唯壁や柱や戸や障子が別々になつて居てハ家になりませぬ之を組立一致させなければならぬ如く無形の家も皆一致和合せざれば決して幸福の家とハなりません。而して之を一致和合せしむるは家内の者が皆共に負ふべき職なれども殊に最も一家の支配者たる細君の智慧と愼みに關係します。一家の風儀と申ものは細君よ大に關係

します。細君は大陽の熱の如きものです大陽が秋よりして追々と地球に與へる熱が弱くなればこの世界は寂寥たる世となりますけれども春より追々熱が強くなれば草木は花咲き鳥は樹間に歌ひ獸は野に遊び人も喜びます、細君も信切、忍耐、克己、他愛を以て一家の内に及ぼせば家内の者は皆其恩澤によりて幸福を得ます。假令一時風波の起る事あるも細君の勉强一つで随分之を穩にする事が出來ましよう。

又奥様がこの勉を盡すの途に於て種々の困難が御座ります。然し困難は人間の爲めに厭ふべきもので御座りませぬ。困難は我等の幸福の資本で御座ります。先に困難を歴て而して後に來る幸福は眞の幸福です。先に樂あつて後に其價ある困難を拂はねばならぬ樂は僞の樂で御坐ります。農夫は永々勉て後ち收納を獲ますこれ眞の樂なり放蕩者は先に樂を得て後に價を拂ふこれ僞の樂なり。基督の御言に窄き門より入よ沈淪に至る路は濶く其門は大なり此より入るもの多し命に至る路は窄く其門は小し其路を得る者少なり」と即ち此の意なり。細君方ハこの困難を忍びてよく勉め幸福なる家族乃「ホーム」を造らば其名譽は細君の一身に集るとならんと存じます。

〇妻その夫を知らず

佐久間象山翁の詩に、妻孥倘ほ吾を信ぜず天下の人何如んと云へる句あり、凡そ尤も吾に厚かるべき妻にして若し吾につらからば夫たらんもの、心果して何如に苦しからん。昔し佛蘭西のパリシー陶器白燒の發明を爲さんとして貧苦の極に陷いりたるとき其妻故を知らず甚しく之を冷遇し左れば後ちパリシーの申したるに余れ屢ば艱難愁苦を受けたれども就中尤も堪へがたかりしは家人の詬誶なり蓋し妻子の輩ら故を解せざるを以て余の功を爲すとを欲せざりしなりと又云く吾の居室は吾を庇床するところにあらず室中に我を苦脳せしむる妻子の詬罵ありて猛風甚雨よりも甚だし(西國立志篇)前漢の朱買臣家貧しく薪を賣りて自活し行く〱歌たひ書を誦す妻之に羞て去らんとを求む買臣曰く汝ち苦しむこと日久し我れ富貴ならば當に汝に報ひんと妻怒て曰く公の如きは終に溝壑の中に餓死せんのみと買臣留むるあたはずして自ら去るを聽す年五十にして會稽の太守と爲り東越を擊破し錦を衣て鄕に歸る(前漢書)

〇良人其妻を知らず

御令閨は御同伴で居らせられませぬ乎。ハア何かチト不快とやら申して引籠り居りますれば。ソレハ〱定めし御心痛の

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

事で、一躰如何の御樣子で。イヤ何に大したるヿもありませんので、別段命ちに別條は御座りますまいテ、アハ、、、。

イヤ是れは〳〵毒庵老、過日は眞に飛んだ行違でげして子、何にソノ高が愚妻から出ましたヿで、兎角女子と小人は養ない難しと、聖人も甘く申しましたテ、平生から善く申し聞けまするが、何さま敎育の無い上へ、愚老のツケヤキバと申すものでげすから、イヤ早や眞に、イエモウ何んとも、是は早や失敬御みあしを踏みましたかナ。

旦那さま、タタ大邊で御座います、アノ奧樣が、只今アノお引つけ遊ばしまして、あのタタ大邊で。(主人)何だバカ仰山らしく、鈴木君御免下さい、ナニ引つけた夫では甲乙と藪井さんの所ろへ三吉を遣つて而して氷でも買つて置け、時に鈴木君夫れから斯うですテ、上官の申すには、ソウ云ふ事情があるなら。イヤ先生御令閨が、何卒ぞお搆ひなく。ナニ宜しひ、(灰吹ポーン)、ソウ云ふ事情があるなら……。

○空氣の說　(衞生局長)長與專齋述

左は客月婦人衞生會の例會に於て演述ありたるを社友佃與二郎氏が筆記ありたるもの也。

私は前回に空氣のお話を致しまするヿを、申し置きましたが、其時に申した通り、御婦人方の衞生會を催に就ては、御婦人がお物識りになるヿを、冀望はしませんが、御承知になつたゞけは、實地にお行ひなさるのが、別して必要であると云ヿを申しましたから、今日空氣と云ヿを掲げて、お話するにも理屈がましき性質や理論などのヿに就て、委しくお話申す積りではありません。只空氣は衞生のヿに就て、直接に關係して、日常の衣服飮食は勿論、小兒の育て方病人の取扱方などにも總て空氣の關係の大切なると云ふヿだけをお噺し致ろうと思ひます。或はお心得になりておるお方より見れは、餘り淺薄卑近のヿで、詰らぬとのお感觸もありませうが、私の主義は、今日直ぐ行ひ得らるゝ丈けを申すので話しも粗雜でありますから其邊は御容赦を願ひます。

空氣と申しまするものは、我々の肉眼には見えないものでありますけれども、人の生活するに就ては、飮料よりも食物よりも一番大切なもので、昔し西洋の詩人の言に、人の生活は空氣を吸とか始まりて、之を廢た時が、終りだと云ヿがあります。實に其通りのもので生て居間は一寸の間も空氣を絶といふヿは出來ません。水とか食物とかも無論大切のものだか、食物なれは七日斷ても死にはしない、水なれは三日斷ても死ないとい

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ふ様な者で、必要と云ても多少猶豫があるが、空氣に限りては僅か五分でも十分でも、之を斷ば困難を來す、困難どころではない、些し長くなると生命を失ふと云程のものであります。

然るに斯空氣ハ非常に尊いものでありますが今日其中に生活して居ても眼に見へるものでないから、少々汚れても分るものでもなし兎角人間に空氣の大切と云ふヿハ知て居る人でも等閑に致し勝のものであります若し其分量が足りないとか又其性質が惡いとか申すヿがあれバ其時ハ大層人の衛生上に害のあるもので萬事に關係を以て居る必要品で御座いますから能く平常に其大切なる者といふヿを心得て居りませんければ何角に付けて大きなる不幸を受るヿに成行きます。

空氣ハ透明にして地球を包み廻はし我々の頭上より日本里數高さ十六里位の處まではハ充ち滿ちて何れの所にも行渡らざる所なく又殊更に人爲にて汚しさへしなければ世界の空氣は何處にでも人の生活に適當しないと云ヿハない北極の寒き地方でも熱帯の暑き所でも住居の出來ぬと云ヿハなく富士山の頂上でも亦風船に乘ても空氣のある所なれバ生活は出來るものであります是でも空氣の生活に必要と云ヿは分ります然るに世の中を見れバ往々空氣の大切なることを知らざるが爲に折々過ちを生ずることがある例へば親が乳兒を懷て寢る時に小供の顔に着物を覆ふとか或は鼻も口も親の肌に密着せしめたり或ハ深く夜具の中に眠むらせるなど是等はよろしくありません小供は未だ手を以て夜具着物を除け頭を持上ることも出來ませんから若し密に肌に懷き締め蒲團の下にムグらせる如きヿがあれバ十分に空氣を吸ふヿハ出きません又いぎたなき婦人などハ小供に乳房を與へながら眠りこんでしまひまして口も鼻も塞がれて空氣の流通を斷ち目覺めて見れバ小供ははや事きれて居るなどと云ふ例しハ世の中に幾らもあります是等は空氣の大切と云ふことを御承知ないからの様に思ひます

それゆへに子供を持てバ誕生した時から直ぐに空氣の流通を妨げぬやうに注意せねバならぬ赤坊を包むにも喉の下などハ推さぬ樣に鼻と口にハかゝらぬやうに心をつけ赤坊ハ暖き所から出たからとてヅックリ頭から包み込其爲に十分の空氣を吸ふことが出きぬと云ふ樣な事のないよふにせねバなりません乳兒の鼻と口とは常に能く掃除をしなければならん洗濯てもしたる「ハンケチーフ」か軟き白布を指の先きに巻水に浸して時々口鼻の粘液を拭ひ又乳房を與ふる時も鼻と口とを塞がぬ樣に用心しなければならぬ乳を飲み居る間ハ口で呼吸をす

るとが出きませんから鼻に注意することと勿論であります時に或は噎せたり苦しがつたりして甚だ困難不愉快を與ふることとがあるもので御座います。

右の様なる害は皆乳兒を抱き寢するより起ることであります から成るたけ別に床を設けて寢すがよろしい西洋では別にしますが日本では親か乳母が添乳して寢かし附けます夜乳を引かせるは力づくと思ふ様な習慣が行われて決して一人りは寢かしませんがこれは太が宜しくない風習であります或は小兒の顏を深く夜具の中へ押込み或は母親の顏と顏と相對して双方より呼出したる炭酸に富みたる空氣(後に詳なり)を吹入し甚しきは前にも申す様な睡中授乳の疎忽に由て窒死せしむるなどの害があります 私 も澤山子供は持ちましたがまだ實行はして見ませなんだが友人などは別に寢せる者もありまして何時間毎に乳を與へ何時間毎に寢床に入れると云ふ様にすれば最初は泣きむづがりても二日か三日を經ればチヤンと習慣が定まりて後になれば毫も心配はありませんといふ事であります成丈けは實行を願升。 (未完)

○戒指考 (第六) 久松定弘

少年は妖僧の指示のごとく四衢路に佇みて今かいまかと等居たるに果て妖僧の言に違はず何處ともなく夥多の人列を整へ陸續として出來れりその行列には貴賤あり老若あり馬に騎るあり車に乗るあり喜ぶもあり哀むもあり千狀萬態なる中に其容貌は嬌艶なるも何となく驕傲の風を帶たる婦人驢馬に騎りて出來れり其衣服は輕綃などにやありけん雪を欺く肌膚は透徹りて衣服を着ぬものに似たり又其雲鬟には燦爛たる黄金の髻飾をさし右手には黄金の鞭をもち頻に驢馬を驅たてゝ通過たりこれより逈に遲れて容貌最と端正なる一少年寶石、眞珠を以て飾たる馬車に乗り悠然としていで來しが彼少年の這處に佇居るを見るや怒れる聲をふりたてゝ汙も汝は何用ありて這頭に彳やと詈る其時少年は臆する氣色もなくさきに妖僧より受とりたる手紙を無言にて差付れば馬車に乗たる少年は否める氣色もなく徐にこれを受取しが此手簡を讀畢るや「吁、全智全能の天帝よいつまで妖僧、「ハルムブス」が專恣を忍び給ふや」と叫びて左右に侍りし二人の從者を呼近け驢馬に乗たる婦人に追附てその戒指を無理奪來らしめ之を少年に與へけり是なん曩に少年が「ウエヌス」神像の指にはめて失へる者なりしと云ふこれより後少年は復び妖魔の爲に苦めらるゝとなかりしと言傳ふ。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

又中古歐洲にてハ聖母馬里亞に戒指を奉納するの慣習ありき「モンストレ、ー氏」の所錄に據れバ「ルウドウ井ク、フホン、ルクセンブルヒ」ハ「ルウドウ井ク」第十一世の時死刑に處せられしが刑場に臨めるとき指にハめたる戒指をとり引導のため傍に立たる僧某に與へて「願くハ此戒指を聖母馬里亞が肖像の指にハめて後世の功德となし給れ」といひけるに僧ハこれを肯へりと。

其他獨逸の史家「ハイステルバッフ氏」などの所錄にも妖魔あり美人のかたちに化し少年を誘ひて其心を動しつるに戒指を與ふるに託してこれを魔道に引入し等の話あり其他戒指の事につきてハ種々の怪談あれども戒指を交換するの慣例ハ皆宗敎上の儀式と驅魔の執迷より生したるものにして別に深き理由ある事とも思ハれず或宗敎家ハ附會の說をたてゝ戒指の交換ハ神聖ある起原あるが如くいひ倣したれども皆信するに足らざる妄說なり要するに此慣例ハ古昔人智のいまだ開けざるとき僧侶等愚民を脅嚇するに魔鬼の祟りをもてせしかば愚民等これを信しろの魔鬼を驅らんがために戒指を交換するの例を遺したるあらん然るよ後世にいたりてハ基督敎信徒もその舊慣を墨守りて執迷に執迷をかさね俗人ハさらなり僧侶といへとも其慣例の起原ハこれをしるものなく只此例によらされば心に慊とせざる習俗を生せしものならんか聊管見を誌してもて識者の訂正を乞ふ、(完)。

小說

○小說神髓

蘇格氏著　ケ子ルヲルス　(第十八回)

トレッセリアン八角堂を出づる途端に彼のマイクに出で會ひぬ面倒なりと思ひて態と知らぬ風して行きに掛ればマイク乍まち之を召び止めドウモ殿方と云ふものハお仕合せなもので吾々ハコウ犬のように使ハれて斗り居るのにアナタ方ハ女まで連れてお出でなさるとハイヤ何うもお浦山しひと嘲弄すればトレッセリアン怫然とハしながら相手にもなれず尙ほ聞かぬ樣をして行かんとするにいよ〱惡口して止まざるにぞ口惜しき乍らも城內の場所柄と云ひ事を穩便に仕舞はんとて懷中より少々の黃金を取り出し紙に包んで之を與ふるにマイクちろりと見て冷笑しヨシ〱金を出すとなら秘密をかくして遣るまいものでも無い然し貴樣は果報者よ此の己樣の目にかゝり乍ら僅か之れ斗りで落度を逃るゝのかなど尙ほ雜言を絕

たざるにぞトレッセリアン最早堪へがたく之を突退け袖を拂つて立去りたり。

斯くて何如にかせんと思ひ難やみ乍ら行くともなく彼處此處を吟行とき端なくエーランドに會へりエーランド欣喜して之は善い所ろにて御目にかゝりました兼ねて御言附のカムナプレスの婦人は斯々の事にて此所ろまでお連れ申しましたが何か書狀をお認めあつて之をレスター侯へ捧げよとのお言付け然し大したる殿さまへどうもあの樣な婦人が直訴する譯もあるまい万一間違いましたら此の私目にも其のお叱りの來るとと存じまして先づ旦那樣のお目にかけて夫れから持參しませうと存じお尋ね致して居りました之は眞とに好い所ろにてお目に懸りましたと云ふよ、然らば其狀を見せよと言はれ、畏こまつて隱くしを探ぐるに不思議なる哉之を見ず、ハテ之は異なとと驚ろいて前後キヨロ／＼上下に打案してドキマギすればトレッセリアン大に怒つて一刀に手を掛け其樣な大切なものを失ふと云ふがあるものか汝ぢ故意に之を隱くしたるにはあらずやと意氣まくに、ニーランド喫驚しどうぞマー左樣短氣に仰せ下さるゝお只今まで在りましたとゆへ切度其處等に見當りませう一寸とさがして參りますと言ひ棄てゝ逃足出して逃げ去りホット息氣を續いで大ひに弱わり、イヤモ武士の奉公は之れだから困まるタッタ一封の手紙に刀に手を掛けられて溜まるものか之れまであの婦人を連れて來たには並大抵の骨折では無いに夫を賞めもせず手打などとは扨て左て武士は無情なものだモウ斯うなつたら逃ぐるに若かず然し逃ぐるとすれば昨夕の金の指環が惜しうなつたイッソあの時に貰らつて仕舞へば好かつたにイヤ／＼指環も命ちには代へられぬ兎角事なき中に逃ぐるに若かず左樣／＼と足ふみ出し乍ら又たつく／＼と考へ然しあの手紙が屆かぬ爲めに可愛相なあの婦人が又た何の樣な憂き目を見るかも知れぬ此迄男氣で助けたものを此處で棄てるは不信切の極だイッソも一度彼處に行つて更めて手紙を書いて貰らい誰れかへ賴んで殿へ屆けて貰はう其上で逃ぐれば心も安いと云ふもの左樣なりきと思ひ直ほしまたもやすご／＼として彼の八角堂に歸る。

歸れば堂の門前にマイクと門番と並び立つて之を誰可す、ハイ／＼私は手品遣ひで此内へ私の妹が居りまするから一寸と遭ひに參りました何卒遭はせて下さるようと言へばマイクはカラ／＼と打ち笑らひ左樣な烏亂な事を申すと容赦せぬぞナニ貴樣等の妹が此處らに居るものか愚圖／＼すると此の宏か

ら放り出すぞ幸ひ貴様の手品で身を助かつたが好い、どういたしまして決して〳〵烏亂なものなどでは御座りませぬ何卒一寸とお會せ下さるやうに、まだ愚圖〳〵申せば免るさぬぞツレと合圖に兩人立寄り難なく之を擔ぎ上げ堂門外はるかへポーンと放り出す、エーランド重ね〳〵痛められて嗚呼々々さても〳〵。然れども特に知らず此等の些事皆な相合して遂にいよ〳〵彼の可憐の佳人を苦しむに至る悲しひ哉。

佳　傳

○コルチリア、グラツキの母

グラツキの母と云ふ言葉は耳馴れたる言葉にて度々聞く所なるが實にグラツキの母コルチリアこそ家族の大王にして英傑の家に生れ有德にして名望ある政治家の妻となり而して其產む所の二人の男兒はロマ史上最も花々敷活劇を奏したる英俊たり其二人の子、チベリアス、セムプロニアス、グラツコス、及びケアス、グラツコスが有する所の性質の其祖父ポプリアスコルチリアス、シピオとて彼のハンニバルを平げてアフリカナスと綽號せられし英傑に似たる所多きは其母コルチリアに依りて傳はりし所なるべし去れば母が賴とし榮とするは其子にて曾て或る婦人コルチリアが外裝の餘りに見醜きを見て珠玉は何れに在りやと尋ねしにコルチリアは其二人の子を指してこれ妾が寶玉にて持つに價ある寶に候と答へたりしとなんこれぞ母たるもの丶誇るべき誇なるべし然るに其子にして無慘にも愚民のために殺されし時母の嘆は嘸ならんと或人訪ひて慰めしにコルチリアは「グラツキの如き子を持ちし女は決して不幸なる者とは申されませぬ」と答たりとぞ實に賢母の心を持てる女丈夫なり思ふに早く良人に別れて寡婦となり彼の大王プトレミーが求に從ひて女王の位につき王國を主領し金殿玉樓に人位の榮華を極ることをなさで却て破窓陋屋に在て寡婦たるを勝たりとせしは全く其子を敎育せんと思ひたればなるべしさればロマ府民が銅像を建て丶コルチリア、グラツキの母と銘せしこそコルチリアが頭に金冠を捧げしよりは遙か榮あることとなりしと世の人々は云ひ傳ふか中にもアメリカ人の如き其愛する獨子を戰塲に送りて私かに國の爲めに其子を捧げたりと喜ぶ母を生ずるに至りしは偏にコルチリアの精神に感化せられしによる世の母たる人は眞に其子を誇りの冠りとせよこれ至上の爵位なり公侯伯の爵位も比すべきにあらす。

寄書

○いちつめの批評を讀みて思ひ得たるとども（其二）

本鄕　Y. S. 生

次に批評者は「ソレト知リツヽ何故ニ文格ノ一致ヲ破ラレタノデス」と言へり一通りハ御尤もの樣なれどもよく〳〵前條の事情（即ち譯者が此書を作りしは不用意に思ひ立ちしと及び時としては「ユ、オ、ス」を破るとを惡樣に言ふべからざると）を察すれば批評者が云々と非難するは「何故法律ヲ知テ法律ヲ犯シタルゾと」云ふが如き道理の立ちたる言にハ非ずして寧ろ雜貨商の看板を掲げたる商店の前に立ちハだかりて「何故貴樣ハ茶の一品賣を仕らぬぞと」難題を申込むに似たり買者ハ賣者の自由を禁制する能ハず批評者ハ作者の自由を禁制する能ハず。

次に彼れ批評者は「何トウタテキ限リニテハ候ハヌカ」の一句を摘出して譯者が所謂鵺文の一例なりといへり譯者は曾て自序其他に於て文中鵺文ありと斷りたるを見受けず但し自序に於て通篇の有樣ハ鵺に似たりと謙遜半分の洒落をやられたるとはあり批評者が譯者の所謂鵺文云々との一言は甚だ人を誣ふるものなりよし夫れは兎も角も本篇の初二三段は譯者强ちに古文を撰びに撰びたりとも見えず要するに雅俗言混淆なる一種の文躰を採用したる迄なり若し夫れ源氏狹衣の古文躰をつとめて採用しながら其間突然近世の通言を交へしならば隨分奇怪に過ぐるを覺ゆべし批評者の非難是れに於てせずして彼れに於てするハ抑ゝ如何の心ぞや批評の失當も亦甚しと謂ふべし。

批評者はミナレザヲがチャーレス、ラムの文に似たる由をことぐ〳〵しく言へり余を以て察するに譯者ハ沙翁のを文直譯せずして義譯せり而して義譯するに際して往々原義を改縮修飾せり余は曾て沙翁の文を讀み又拉氏の文を讀みたるとありミナレザヲは沙翁を距ると稍遠く拉文を離ると稍近し然れども拉文ハつまり沙文の要領を約述せしものなればミナレザヲが偶然拉文に類似したりとも極めて恠ましきわけにハ非ず加之該書ハ拉文の如く筋道一遍を譯述せしものとは大ひに異り其文を才にし其躰を奇にして以て沙氏拉氏の文の外別に一新躰面を開きしものなれば此際譯者は譯述の力の外更に特殊の伎倆を出だしたるや疑も無し（かゝれば譯者が自ら戲譯と言ふも尙ほ不充分の樣に聞ゆるなり）今批評者は此等の入り組みたる事情を分析せずして一概にミナレザヲの拉文に似たるとを非難するは最も心づき無き人の言なり。

批評者はミナレザヲを評隲するに足るべき眼力無きにや將た其人と爲り至つて偏狹狠戾人の美を成すを好まざるにや此該書を批評するに當つて徒に一二の微瑕を指點したるのみにて幾多の褒揚すべき諸點を悉皆放擲して言はず余がミナレザヲを讀で思ひ得たる所のものハ批評者が「此書ニ就テ評スル文ハ是バカリデス」と指示せし所のものと同からず余が所謂幾多の褒揚すべき諸點の一二を擧ぐれば第一作者は斯くも諸種の文躰にてものしながら貫通なる和文の法則（殊にてにをはの調へ）を犯すと少きは天晴の手際と謂ふべし（余を以て見れば文中尙ほ如何にぞやと思ふ所も無きに非ず然れどもそは至て少し）近來の小說は少しく文筆の嗜好ある少年が和文の語法なんどを夢にだも辨へずして勝手次第に書きのめすもの多し故に其工夫はいさ知らず其文の不躰裁なると殆と名狀すべからず（此類の小說は彼の批評者先生其人が此頃或る雜誌に引續き掲載せらるゝ三〇〇三〇〇を以て適例とすべし余は去る仔細ありて其文に就き語法上の犯則を數へたるとありしが每行一つ若しくは二つの割合にてありたり其他用語の意味を一向に解せずして使はれたるも甚だ多し章句の錬不錬などの談に非ず實に論外なり）狡猾なる者は語法を犯さずして文を作るとの至難なるを感じ遂に言文一致躰と出掛けてかつ〳〵凌ぎをつけるも多し蓋し此躰は至て無學の人の手に成るも一寸胡麿かしの利くものなればなり。

次に褒揚すべきは譯者が文躰の變換を概ね一段の中途に於てせずして段々の遷り際に於てせしと是れなり若し一段の中途に於て俄然文躰を變へつゝ行きしならば恰も木に竹を接ぎし如くにてよし巧に接ぎたりとも看る人は一種不愉快の感情を起すべし然るに段を逐ふて文躰を換へ行くときは恰かも一庭園に梅櫻桃梨を順次植ゐ付るが如く看る人一々心目を快くすべしミナレザヲが斯く適當の方法を用ひて「ユ、オ、ス」を破るを見て尙ほ不滿足に思ふ者は恐らくは批評者一人なるべし。

次に篇の短き割合には修辭上の美類る多きと是れなり余が最も感服する所は戲曲躰謠曲躰の二段なり此二段は許多の「ウ井ット」と「ヒューモール」とを含有し且つ姿態の縱横なる變化の窮り無き是を近來の好文字と謂ふも敢て不可なかるべし批評者其人の文（余が前に言ひたる「不躰裁なる文の適例」を作りし人の手に成れるものを總稱す）の如きは一種嫌惡すべき吾れ面白の「シミリー」を經とし卑陋なる無洒落を緯としてのんべん然だらり乎と組織せるのみミナレザヲを以て之に比ぶれば其殊班如何ばかりぞ必ず具眼の自ら領する所なるべし。

其他初二三段の行文は「クリヤ」にして「ノーブル」なり「エレガント」にして「フリューエント」なり斯くても批評者の如く價直無し鍛錬を缺くといはゞ何をか價直有り鍛錬を經といふべき蓋し批評者の如きは更に批評の法を知らざる者なり。

最後に一言斷らざるべからざるとあり讀者或は惟はん余が批評者に對して其批評の失當を責むる際往々批評者其人の自作に係る文に向つて餘計の非難を試みたるは如何にぞやと蓋し批評は著作とは全く別才にて自ら筆を取るとの出來ざる者も隨分批評を精細に爲し得ると無きに非ず然は去り乍ら學問識見無きものが此れの「グラウンド」も無く彼れの「スタンダード」をも取らずして强忠暴者無闇滅法界に他人の著作を褒貶したりとて恰當適切の批評を作り中てんとは思ひも寄らず既に批評にして恰當適切ならざれば批評せざるの愈れるに如かず余は始め批評者が言の餘りに肯綮に中らざるに驚きたれば若しや聰明絶世凡俗を驚すべき技倆おはすと思ひ返し徐かに批評者其人は恰當適切の批評を爲すに足るべき學識を備ふるや否やを撿査せしなり而して余は竟に批評者が此撿査に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

不合格なるを發見せり是れや〻迂遠にして不要なる穿鑿の如くなれども其實決して然らず之を物に譬ふれば茲に良匠が多少苦心を盡して造りたる建物あらんに之を批判せんものハ必ずや亦良匠ならざるべからず若し其れむざとしたる破壊大工の身を以兎角にあけづらひを爲さば誰か其妄を嗤ハざるべき斯る塲合に於て批判者の果して良匠なるや將た破壊大工なるやを察するハ決して迂遠不要のわざに非ざるなり嗚呼談何ぞ容易ならん而して批評殊に難し余特りイラツメ批評者の爲めに言ふに非らず然れども其の不學陋見イラツメ批評者の如く其の誣妄放誕イラツメ批評者の如くにして苟も褒貶の大任を執らんと心掛くるハ抑沙汰の限なり豈少く恥を知る者の得て爲すべきならんや是に至てハ余ハ特にイラツメ批評者の爲めに言ハざるを得ず(完)

新報

●宮廷錄事

○皇后宮行啓　皇后陛下には來る廿一日午後一時三十分御出門にて日本赤十字社へ行啓の旨仰出されたり、

○女新聞

前號に申し置たる女新聞は、府下下谷北稻荷町四十三番地の女新聞社より、鈴木牛三郎氏其發行人兼印刷人として、財滿久一氏其編輯人として發行せらる。每日曜日發行一部一錢五厘、此度の第一號には女子生まる うちだよしかず)祝詞(跡見花蹊)母親の心得其外小說新報あり固より新聞とは見る可らざれとも亦是れ女學界に一雜誌樣の者を得たりとして感謝すべきと也。

○不祥の流言

男女交際に關する不祥の流言近來續々として之れ有り、一言するに二三年來上流に對して彼是と申したる京童は、今まや追々と其吻を中流社會に向け、例の想像と邪推とを以て巧みに評判するものと知らる。然し此の流言に掛つて惡評を蒙るの人あらむ、吾人は其人に申すべし、若し不幸にして此評判の如くならば彼れ即ち正當の罰を蒙るとして有がたく思ふべし、若し不正當の評判にてあらば何の構うともなく堂々として立派に立つべし、蓋し最上の辨解は默するに在り、苟くも今ま女流社會に働らくものにして、豈に一二の邪推惡評を蒙るとなからんや、歷ば之れ有り之れ有る每に暫らくして乍ち笑となる、則ち是れ尤も勢力あるの辨解法にして、天下是に越たるの辨護人はなし、臆病の人々よ試みに女の雜誌の記者として、又た一女學校の世話人として、暫時にても其路に當つて見るべし、少しは其膽が大きくなるべし豈にグドぐと辨解するを要せん。然し吾人は前號にも論じ置たる如く、男女交際に非常の危險あるとを信じ、先進開化者の非常に用心せざる可らざるを信じ、少年が交際會の幹事となり、少娘がヒトリで其會に臨む如き、實に滅左右ず極なる男女交際法をば大不賛成するもの也、讀者希くは此頃ろ論じつゝある社說の結末を見て下さるべし。

○演藝の改良

明十七日府下鹿鳴館に於きまして、揷頭のきく市川團十郎相勤め、水の江尾上菊五郎相勤め、二番の踏舞之れ有り候、演藝の改良に付きましては、此頃すでに二つの會も出來、即ち此の催しは、演藝矯風會と云ふ少しりの實際に近き方の集りにて發起いたしたるものに候。段々と此樣の矯風が行われますゐは實以て有がたひ事で、聖人の國へ旅行いたす途先きが少しでも近くなるのは、何はさて置き一切賛成するところ也。

○慈恩醫院婦人慈善會　東京府慈善醫院婦人慈善會員は去月廿八日午後三時より山下町の鹿鳴館に參集し第四會婦人慈善會の事に付き協議會を開きたりと。

○私立産婆學校　府下芝區巴町六十三番地に私立産婆學校を設置し完全なる産婆を養成し實地就業せしめん爲め滿十六歲以上の者ヨ入校せしめ度と右方法書相添へ認可の儀を同區櫻川町太田松郎氏より去月廿九日府廳へ出願せりと云ふ。

○レース製造所　東京府レース製造所に於ては來廿二年佛國巴里府にて開會する萬國大博覽會へ蝙蝠傘の裝飾にすべきレース等を出品せんと生徒を拔擢して目下製造せしめ居るよし。

○高等女學校生徒募集　同校にて來七月生徒六十名募集さるゝなるが同志願者は高等小學科第二年級卒業の學力を有したるものにて本月三十日までに出願すべしと又入學試驗は七月五日より始むと云ふ。

○篤志看護婦人會　井上伯爵花房子爵兩夫人幹事となり去五日午後二時より赤十字社病院に於て同會をひらかれ帝國大學御雇教師スクリツパー氏の講演ありし由。

○婦人の電信技手　遞信省にて嘗て女子を以て電信技手に宛てんとの議あり既に數名を試用せられしに其の局制に差支へあり到底技手に採用しがたき趣併し助手として其技手の親戚のものに限り應用するとになるとか。

○東京産婆會　每々本誌にも記るせる如く府下の開業産婆は府廳の說諭により數度會合相談の上今度規約を結びて東京産婆會を設立せり會を甲乙二部に分ち各每月一回集會し教師を聘し講義を開く由にて甲部の講師は櫻井郁次郎相磯醇外二氏乙部は岩田文吉木庭渠外四氏にて本月より開講すると云ふ。

○東京醫學校女子部　神田區岩本町の東京醫學校にても今度女子部を設ふけられ差し當り二十名の入學生を募るよし。

○四十二番女學校　同校にて去五日午後五時より文學會あり同六日午後三時より卒業式あり兩式の順序左の如くなりき。

○ハツバルド文學會開會式順序

新禱○音樂(くにぐしまぐ)○英語歡迎文(野邊地りあ)○聖書暗誦

(小學科生徒)○邦語作文(稟性は恃む可らず)(高木きん)○音樂○英語暗誦(堀とよ)○音樂、ピアノ(大倉とよ、五島あき)○邦語問答○音樂○英語暗誦(五島あき)○音樂○生徒作文集朗讀(秋山ちよ)○音樂、ピアノ(野邊地たつ、藤澤ふみ、山岸みつ)○邦語作文(櫻井驛永訣の圖に題す)(鈴木しげ)○英語暗誦(藤澤ふみ)○音樂(はるかにあふぎみる)○祈禱○カリセニックス。

○新榮女學校卒業式順序

祈禱○讃詠○主祈禱文○邦語祝文(關小菊)○英語作文(兼友しつ)○音樂○邦語作文(婦德を養成せざるへからず)(東條あさ)○音樂○英語作文(村上小益)○音樂○英語作文(牧野さた)○音樂○英語作文(宮川つや)○音樂○英語作文(大舘ゆみ)○音樂○邦語告別文(山岸みつ)○卒業證書授與○卒業生唱歌○祝辭

同日卒業せられたるは左の如し

英學科

村上小増○兼友しつ○宮川つや○牧野さた○大舘ゆみ

日本學科

東條あさ○關小菊○村上小益○吉田操○山岸みつ○牧野さだ○刀根せい○外浪せん○宮川つや。

○書冊施與　豆州三島驛の間宮はま子(四十九年)は性來酒を嗜み居たるも近村の農民等が懶惰に流るゝは多く酒より來るの弊なりとて自ら禁酒せしは一昨年中の事なりしが客月十七日津田仙氏を同驛に招聘して酒害に係る演說を請ひしに傍聽者は千餘人に及び此内婦人も三十餘名ありしとか、其席にてはま子より酒の害百部を傍聽者へ配與し猶望みのもの同子の宅にて與へたりと過日の時事新報に見へたるが是れ等をこそ眞の慈善の業と云ふべけれ。

○高松婦人會　伊豫松山始審裁判所高松支廳詰官吏の細君が設立にかゝる婦人會は去月十六日同地濱之町堀川屋敷に米國婦人ダットレー子を招待し午後二時より懇親會を催したるが此日同氏と共に來會せし松宮はる子及ダットレー子の演說(傳道師村井知至氏通譯)あり五時閉會したりとのこと。

○京都婦人共勵會　去月廿六日午後二時より京都下京三組室町錦小路上る寶鏡舍に於て同會の演說會を開かれ「米國に於ける女子の敎育」(ピット令孃、和久山きく子口譯)「日本婦人論私考」(白藤信嘉氏)等の演說ありし由。

○松本婦人矯風會　去月廿日同地北深志町寶永寺に於て婦人矯風演說會を開かれしに百數十名の參聽者あり育兒法(アルマー氏)風俗上の談話(小林判事)等あり中々盛會なりしと。

○女子敎育養成所　佐賀縣にては尋常師範學校内に女子敎育養成所を設ふけ去月十五日生徒十名入學せしめたりと。

○保姆養成　山口縣にては小學校にて幼稚保育科を設くるものあり保姆の養成目下急務とする所なるを以て四週間を期し保育法方を傳習するの目的にて傳習志願者を募集したるに意外の應募者を得たるにより先つ志願者の中十名に傳習生たることを許し四月二日より同縣尋常師範學校内にて講習を始めたりと(官報拔抄)

○演說　去九日德富猪一郎氏はスキヤ橋會堂に於て社交上に於ける婦人の勢力と云へる題にて演說あり大鳥圭介氏は去十日學士會院にて女子敎育主義と云へる題にて演說ありき其筆記は何れも後號に載すべし

○出版板權書目　去五日中官報にて公告ありし出版及版權登錄書目の中女學に關するものを左に揭ぐ

出版

樂品使用法	一冊	著作者 發行者	四屋訥治 岡村增太郎
新撰畫學入門 自巻一至巻八	八冊	著作者 發行者	岡村政子 岡村竹四郎
世帯平記雛具合戰	二冊	著作兼發行者	村山ふさ
樂典初步	一冊		文部省
新撰小學唱歌集 上巻	一冊	著作者 發行者	原田砂平 廣瀨市藏
音樂之枝折	二冊	著作者 發行者	大村芳樹 辻敬之
同詠共選歌集 附錄共	二冊	編輯兼發行者	橘道守
交際論	一冊	著作者 發行者	木村ならゑ 朝野文三郎
畫書程式 雜木の部	一枚		東京砲兵工廠
慈善會講話錄	一冊	編輯者 發行者	有田德一郎 岡島幸治郎
立志奇緣雪裡の佳人	一冊	著作兼發行者	千葉茂三郎
栁のおち葉	一冊	著述者 發行者	故戸塚種女 戸塚利作
明治の細君上編	一冊	著作者 發行者	大森矢之助 關田倉吉
貴婦人會法話	一冊	著作兼發行者	小栗栖香頂
花鳥漫畫初篇	一冊	著作者 發行者	瀧澤清 松崎半造
日本開化之先導者	一冊	著作兼發行者	福岡てる
月琴雜曲清樂之栞	一冊	著作者 發行者	岡本補 井口松之助

版

題畫一百二十詠	一冊	全	青山延壽
立志奇緣雪裡の佳人	一冊	全	千葉茂三郎
明治之細君上編	一冊	全	大矢森之助
月琴雜曲清樂の栞	一帖	全	井口松之助
交際論	一冊	全	木村ならゑ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

權
小兒病診斷法　一冊　全　森正道
新編教育學校用唱歌　一冊　全　野口幾太郎
明治唱歌第一集　一冊　全　大和田建樹　奧好義
田村畫帖人物之部　二冊　全　田村宗之

小供談

○義の爲に死せる人（附り當欄内を借りて母御衆に一言申上ぐ）（其二）

彼は敵の大將にて宥し難き人とはいへ母親の聲を聞きて自ら命を抛ちて三人の子供を救ひし其精神は我等共和黨の精神と少しも異らぬ此の心ある人を殺すは我共和黨の恥なり今彼を宥せば再び兵を擧て我等を危ふせんは必定なりよし彼か銃尖に我兵は仆るゝも我共和黨は仆るゝも今彼を殺すは義にあらず我黨の耻辱なり此の耻辱を顧みて彼を殺し我黨の勝を得るもこれ我黨の譽とする所ならんやと切論致しましたが兎角議論は纏り兼ねました獨り彼一人の共和黨の大將は深く決心する所ありと見へ或夜軍服を着けまして彼の擒はれし大將の居る城に赴きまして自ら着けし軍服を脱ぎ彼の大將に與へまして其夜隱かに遁れさしました丁度其夜の事でありましたが彼の共和黨の大將は國中に命を下して申しますには若し彼の大將を隱くす人あらば死に處せんと下知致し置きました事ゆへ其翌朝となり彼の大將は遁たりと云ふにこれを隱して遁せしは我か大將の業なりと解りましたれは軍律に照して止を得す死刑と定りました其手下に屬せし兵躰は勿論其噂を聞き居し人々は皆涙を流しまして流石に猛き武夫もシッポリと見へました彼の大將は斬首機の上に上り最そ手短かに辭世の詞を述べましてトント其機の回る同し時此の大將を死刑に申し渡しました法官ハピストルにて自殺を致しました。

此の話を讀みて我日本人ハ如何の感覺を起しますか實に阿房らしい其國の事も顧みずして輕々しく命を棄つるとお笑ひなさる人もありましよ斯る思を抱かるゝ人ハ大半でありましよが中には又少しは感心な奴とお賞めなさる人もありましよされど自分に其地位に立ちて居ながら斯る事を爲さんとハ誠に思ひも付かぬ事で御坐りましたこれが西洋の活劇場に顯はるゝ一の出來事でありますす中々高い感情ではありませんか斯る感情は如何にして起るやと申しますに決して自ら起さうとて起るものではありません自然と何時間にやら起るもので其自然と此る感情の起るやうになるハ久しき間の敎育が必用であります總て感情と申す者ハ外界より來るもので御座りまするに西洋にハ前に申す如く詩や歌に高き情が見へまする上にも一躰ゑ社會の程度が高ふ御座りますから自づと人々の情が高

くなりますす然るに日本の如きハ詩や歌に高き情が見へませねば社會の程度も卑く御座りますから人々の情が低くなるも道理でありますす然れば我日本の情を高く致しませうには詩歌稗史を高尙にせねばなりませんが此等ハ皆人の腦漿より湧き出でまする作り事でありますゆへ先づ人々の情を高くせねばなりませんサア人々の情を高くせんにハ先づ小供衆の心より始めねばなりません而して小供衆の外界に接し尤も直接に感化を與へます者ハ母親達で御坐りますすれば母親たる者ハ小供の前にてハ輕々しく善惡を定め美醜を申してハいけませんまして小供の喜ひて聞き深く其腦髓に銘しますす話を致す時にハ謹しまねばなりません西洋の人が家庭の教育を致しますに小兒と下女と一緒に置かぬハ矢張此の道理で御坐りますす何卒母たる人小供に向ひてお話をなさる人は言葉の遣ひやうより總て小供の感情を高くするやうおん心得おきありて最と美しき小羊に汚を付けぬやう願ひたく申し參らす一言ハこの事でありますす。

萬國女子大會景況錄　其三

次にアンソニー孃は各外國の議員を紹介せらる各議員かわる〱立ち出でゝ各簡短の演述あり第一にフロンランドのグリツペンバーグ夫人次にフランスのポジロツト夫人扨て其次には客員として印度の彼の有名なる女學士ラマバイ孃次にアイルランドに於ける女子投票樅會、ダブリン牢門傳道會、ダブリン婦人禁酒會、其外の會員よりの來狀を朗讀し且つアイルランドの議員ムア夫人の演說あり次に英國婦人自由協會の來書を讀み次にリバプールのスカツチヤド夫人次にエヂンバラのチヤント夫人次に同じくヂルク夫人次に同じくガスタフソン夫人次に恰も日耳曼より到着したる祝狀を讀み次にカナダのカイフヘル夫人次に米國にてストーン夫人次にウイルラルド孃次にホーエ孃次にサイラキウースのゲージ夫人次に聽衆中よりクラヽバートン孃其外二人の紳士の演述あり了つて書記より議員の姓名を報告したるが之は前にも既でに揭げたるが此際尙ほ左の諸氏新たに加はり居るを見たり

印度婦人會よりとして　アメリア、クイントン
米國少女初會よりとして　ルーエルラ、ヤング
米國社會學會よりとして　リタ、バーチー、セールス
大學卒業生西部會より　ストーエル夫人
經育懇刺防禦委員會より　アンナ、ポーエル
學校投票樅會より　アツペー、メー

○

扨て前土曜日に申殘したる委員十五人を擧て此の萬國女子の大會を永遠に續くべきや尙ほ其續け方何如の方法取調べを委任せらるゝに付き議長の云く斯る有爲の六十の方々の中より十五人丈けを撰び申すとは異に困難なれども止を得ず强いて之を定め先づ其第一にウイルラルド孃を委任し參らせんと申し左のごとく指命したり。

委員長　フランセス、ウイルラルド
委　員　リチヤードソン夫人。ポールス夫人。トーマス夫人。バートン孃。フホスター孃。イーストマン孃。セフール夫人。フロールド夫人。カイフヘル夫人。スカツチヤード夫人。チヤント夫人。ポジロツト夫人。グロート夫人。グリツペンバーグ夫人。

○

月曜日(三月廿六日)の夕方にはセウ夫人の斬腦を以て開會し「教育」と云へる問題にて數多の演說談話あり。畢りて後ち議長は當國の高等なる大學專門學校等に於て男子同樣に女子を教育するの可否何如を可否決したしと申出し之を問ひたるに共に集會したる數千の會員聽衆一同に之を贊成して可決したり。

○

火曜日(三月廿七日)の朝は例の如く開會し「慈善」と云へる問題にて數多の演說談話あり又其夕べは「禁酒」と云る問題にて同樣に演說談話ありセウ夫人の申出に拘る當女子大會に於て萬國夫人禁酒會の事業を贊成し且つ其の成就を希望する旨の議決を爲さんとの問題は殆んど滿塲の贊成にて可決せらる。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

宮内省御藏板

婦女鑑

全六冊

此書ハ宮内省ノ御藏板ニシテ婦人ノ龜鑑トナルベキ和漢洋ノ孝女烈婦貞女賢母等ノ言行事蹟ヲ蒐輯シ且ツ圖画ヲ挿入セラレシモノニテ既ニ本年一月
皇后宮ヨリ華族女學校ノ生徒ヘ御下賜相成リ實ニ婦人ノ課讀又ハ修身口授用書トシテ其徳性ヲ涵養スルニ於テ最モ有益ノ書ナリ今般弊舗ニ於テ發賣ノ御許可ヲ蒙リ候ニ付婦人ハ勿論苟モ婦女教育ニ志アル諸彦ハ必讀アランヿヲ切望スル所ナリ

但シ右書ハ各賣捌ヘ差出シ有之候間何卒御手寄之書林ニテ御講求被下度候

東京書林 吉川半七恭白

定價金壹圓 郵送料金四拾錢

女學雜誌第九十七號に批評あり

●心の寫眞

一名嗜好及性質の記錄（全一冊價金廿五錢　郵稅金八錢）

令孃愛姉諸君よ諸君が其朋友の寫眞を收めおき賜ふ事誠によしされ共こは唯其外貌を見るのみにして嗜好及性質等は之を知る事を得ず然るに此書は嗜好及性質に關係ある事柄の問題卅一個を撰み各朋友に其答案の記入を請ふものなり故に朋友の心中より出づる反射は則ち寫眞となりて見る事を得べし又其側には通常形躰の寫眞を貼るべき欄をも設けたり此書は殊に年若きものに向て興味あるものなれば多くの友達を持ち賜ふ貴女諸君は早く一本を購求して朋友諸君の心意形躰兩種の寫眞を收めたまへ

發賣　靜岡縣靜岡呉服町三丁目　擁萬堂　三浦定吉

書林　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

改良 上等牛乳販賣廣告　定價壹合金二錢八厘　五勺金一錢五厘

每日三合以上御飲用は壹合金二錢五厘の割

弊舍ハ圭ノ御恩惠ト御得意各位ノ御引立ニヨリ日增ニ盛大ニ赴キ難有奉謝候依テハ猶一層注意仕前記ノ低價ト速達ヲ以テ廣ク貴需ニ應ズ御飲用ノ上益々御高評アランコヲ

牛乳專業　北豐島郡坂本村　相愛舍

交詢案內

●雇はれたき方（乙）

一	教師	師範學校女子部の卒業生にして府下の何方へか教授に行きたきものあり
二	書師	洋畫の女教師となり得るものあり廿歲前後時間多らずば女學校の教師となりたし
六	奉公	地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇はれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし
七	裁縫	年齡廿三にして家內の手助けとならんが爲め內職に裁縫に雇はれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき內にて築地邊ならば通いても宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し
八	教師	地方女子師範學校卒業生にて教育に從事し居し者東京にて四五時間は教育をなし餘は自分の勉强時間と定め八圓より十圓までにて雇はれたきものあり尤も洋人の居る處ならば何處にても宜し
九	奉公	東京高等女學校卒業生にして英學を修めんとすれども學資に乏しく依て己れを棚する丈にて西洋人若くは貴婦人方の左右にありて小間使となり傍ら勉强したきものあり

摘要

（一）此案內は社員の餘暇になすものなれば勿論手數料を要せざれども双方照會の郵便費として郵劵十錢御送りの事

（二）前申す如く餘暇の業なれば決して催促がましき申込を爲されまじき事

（三）詳細の規則は本誌第百一號にあり

文明生活○○○○家內經濟●●●●文明生活○○○○家內經濟●●●●●發行者日本橋區川瀨石町三番地●●●●●西原

●●●●

文明生活 家內經濟

文明生活 家內經濟

文明生活 家內經濟

文明生活 家內經濟

ハ英國家庭教育會原撰●經濟政治專門文學士天野爲之●●荻原朝之介兩君序文●●●●●

町田治助譯述●西洋綴美本全一冊定價金拾八錢●●郵稅金六錢●●●●●●

ハ最モ婦女子ニ適切ナル家事ノ一切ノ原則ヨリ愉快ニ生活スル心得方勝手向及普通料理ノ事

ハ食時食物買物其外日々些細ノ事迄經濟ニ適スルコトヲ說レタリ●●●●●●●●●●●

ヲ讀バ家內モ歐米ニ恥ズ文明ノ生活ヲ爲シ得ベク今日ノ世界ニハ一日モ不可欠良書ナリ●●

●文章ハ極通俗ニシテ話ノ如ク婦女モ容易ニ解スルヲ得ベシ●●●●●●●●●●

ノ發賣ハ東京南傳馬町吉川●通二丁目嵩山房●通リ三丁目丸善●銀坐博聞社●●經濟雜誌社

●通一丁目大倉●横山町辻文●內田●●神保町中西屋●其他各書肆ニアリ●●●●●

文明生活○○○○家內經濟●●●●發行者●●日本橋區川瀨石町二番地●●●林●●

廣告

華族女學校士民生徒募集

來九月以降本校下等小學第三級(即最下級)ニ拾五名自餘中小學諸級ニ拾五名合三拾名程缺員可相成ニ付士民ノ女子入學志願ノ向ハ本月中本校ヘ申出テ入學ノ手續等承合スヘシ

明治廿一年六月

華族女學校

東京女學館生徒募集廣告

來る九月より東京女學館へ入學を望まるゝ方は學業履歴を添へ本月三十日迄に事務所へ御申込みあるべし●入學者は年齡十一歲以上にして小學教育を受けたるものあるべし●普通科授業料一ヶ月金貳圓五拾錢寄宿料金拾五圓●入學志願者の數定員に超ゆる時は會員の親族をして他人に先ち入學せしむるものとす●學則其他委細は當事務所に就いて御問合せあるべし

明治廿一年六月四日

麹町區永田町二丁目廿番地

私立 女子教育奬勵會事務所

六合雜誌

版權所有

第九十號 六月十五日發兌

目次○十九世紀の勳爵士(竹越與三郎)○適用の時代、及批評の時代(德富猪一郎)○國民の友なる西堂居士の評を讀む(高橋五郎)○陰府と地獄(山鹿旗之進)○合衆國の政黨(ゴルドン)○神と萬有の關係(大島正徤)○「ユニテリヤン」の宣教師ナップ氏の演說筆記を讀む(小崎弘道)

毎月一回刊行○一冊定價十錢

東京々橋區日吉町十九番地

發行所 警醒社

●明治女學校教科用書

中村正直先生序 中根淑先生跋

中村正直先生閲 木村熊二君編

漢文抄讀

●卷壹一冊出版 ●定價金卅錢 ●郵送料八錢 ●卷二卷三近刻

泰西の文學我邦に行るゝに及んで又漢文の美を説く者なしと雖本邦の言語文章其の從來する處漢土の文章によらさるものなし故に邦人の文學に志す者其の楷梯たる漢文を捨て可ならんや茲書概ね敬宇中村先生の採擇する所にして華を摘み實を採り學生諸君をして時を費すと少ふして効を得るとの多きを欲するものなり江湖教育家諸賢幸に愛覽し給へかし

發兌 東京日本橋區通二丁目十三番地 小林新兵衛

故東京女子專門學校教頭木邨秀子女史著

交際論

全一冊

正價郵稅共金三十五錢

此著ハ大學撰科を許されたる故木邨秀子が其平素講究せし英獨等の諸書に就き更に自己の經驗したる實例に基き人類處世の大本たる交際の方法を椽大の筆を揮ひ論述したるものにして其概目を擧ぐれば自己の交際を務る方法異質の人と交際する方法年齡不同の人と交際する方法年少者と交際する方法男女の交際方法敵友と交際する方法親子同胞の交際方法等の數章に別ち毎章詳細に其交際の方法利害注意等記載したるを以て一たび之を披閲する時は人の交際を圓滑ならしむるの益あり世の交際場裏に婆娑する貴紳令孃幸ひに瀏覽の榮を賜へ

東京々橋區南鞘町十八番地

正文堂 朝野文三郎

遞信省認可

保野時中先生譯

再版 女子教育論

全一册 定價金四十錢

本書は上下二篇に分け通計七章と爲す上篇には勞働社會の女子教育を説き下篇には普通一般の女子教育を論す大凡今日斯の教育完全ならさるに因り其の宜しきを得さるに因り女子の不學無智なるに因り家族及社會に悲み嘆く可き悪結果を生し親子夫婦の愛情も之か爲めに傷き毀ること鮮からす斯る淺猿しき弊を矯め正すには云々の方法を用ひ又云々の手段を行ひて未來に云々の幸福を享く可しと叮嚀に世態人情を穿鑿し且つ着實に意見を述ふるは著者の本旨なり又バスチヤ、トクウ井ール、ジユールシモン、エミール、ド、ラブレー近代名家の説を抄錄し其中に於て女子に專ら小學教師に任する必要を示せしか如きは殊に女子の獨立と尊敬とを保つ可き一頁考案なり我邦女子教育必要の今日幸に女子佳人の一讀を累さんとす

發兌 東京神田小川町 集成社書店

賣捌所 東京博聞社、仝丸善、仝小林、仝博文堂、大坂三木佐介、仝梅原龜七、京都改進堂、熊本長崎次郎、鹿兒島富山仲吉、越后目黒十郎、仝西村六平、長野協利堂

花撰 花菖蒲滿開ニ付御來車ヲ乞フ

本所四ツ目植木屋 成家文藏

發兌				
四月。	七日	十四日	廿一日	廿八日
五月。	五日	十二日	十九日	廿六日
六月。	二日	九日	十六日	廿三日 三十日
七月。	七日	十四日	廿一日	廿八日

定價			
一册。五錢	郵税。一錢	(但府內無郵税)	
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行 一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

明治廿一年五月廿九日
自第百十二號 至第百廿一號 拾册 版權登錄

明治二十一年六月十四日印刷
明治二十一年六月十六日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地寄留 嚴本善治

印刷 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY